

C市B地区に
怪獣出現!

至急隊員は現場へ
急行せよ!
繰り返す……



市街地にも被害が
及ぶ可能性がある!
至急現場へ急行せよ!

怪獣の詳細は現在
報告無し!





間違いなく
ブラン星人が呼んだ
怪獣だわ……

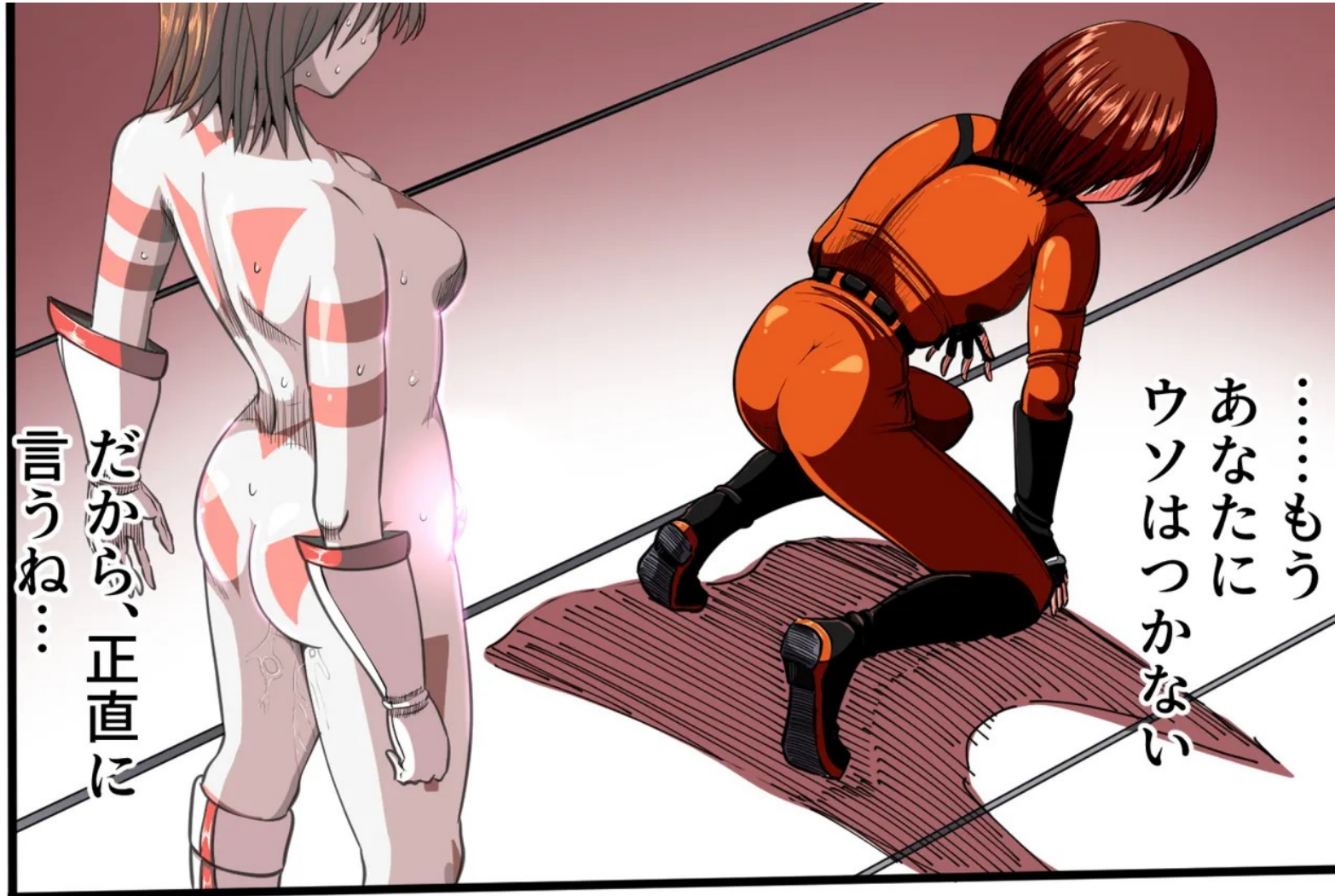
わ……私たちが
行かないと
街の人々が……ツ……!

……光……

伝えておきたい……
ことがあるの……

少しの間
聞いてくれる？

ド……ワニ……



……もう
あなたに
ウソはつかない

だから、正直に
言うね……



そ……
それに……

イル……

イル……



お……

……！



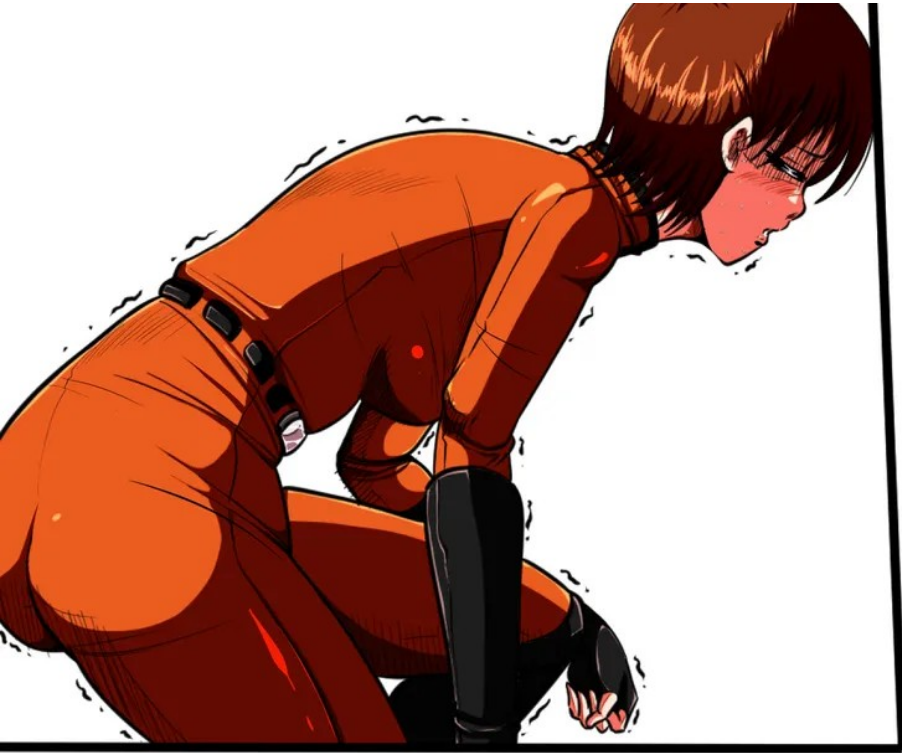
私……ほとんど
力が残ってない……

イル……

イル……

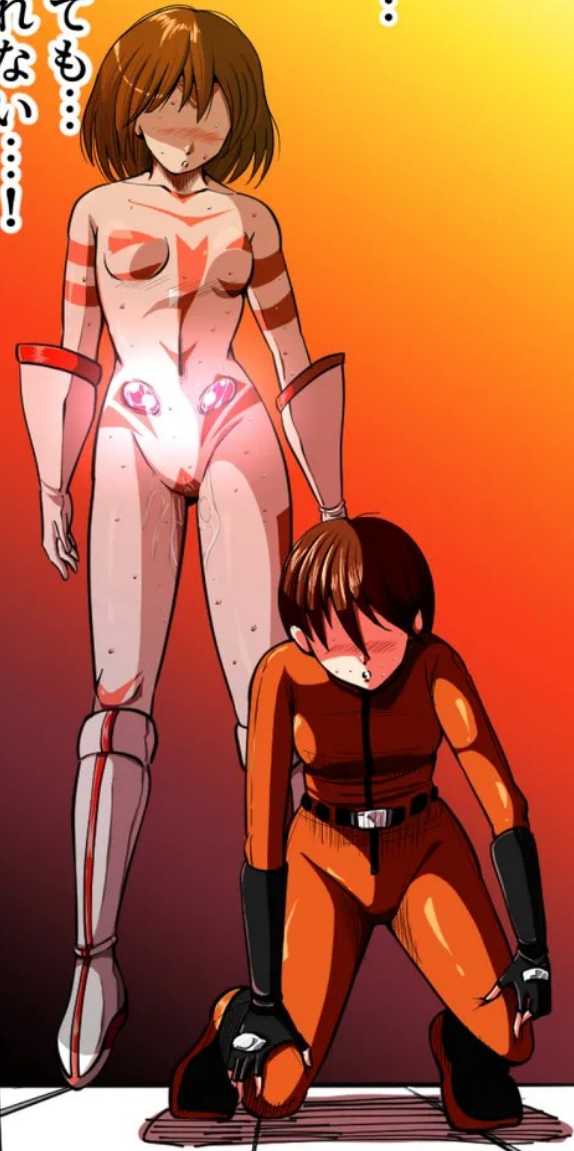
イル……

今の光と同じ……
とても戦える状態
じゃないわ……



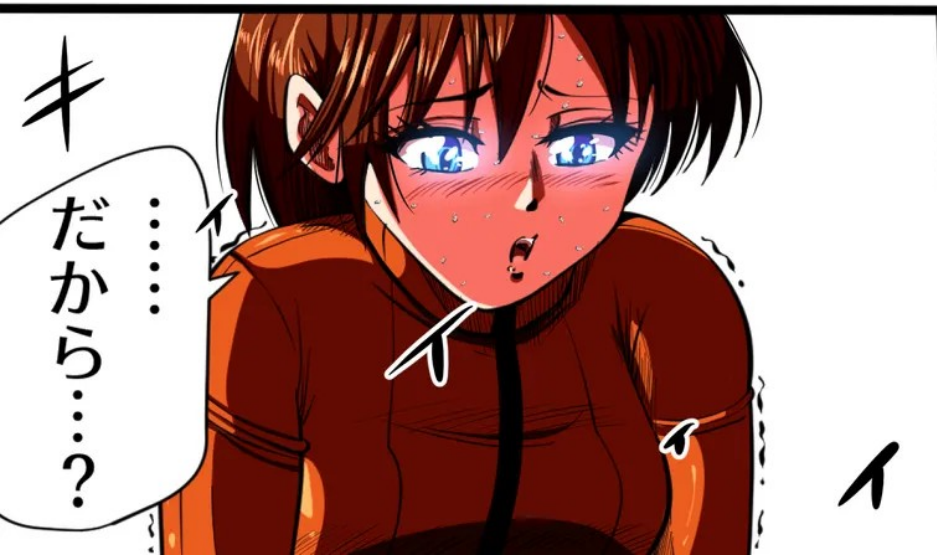
身体の疼きが…
止まらない…の…
あの針のせい…で…

どうしても…
抑えられない…!!



今日の戦い…
正直、かかってないほど
苦しいものになると
思う…

だから…



…
だから…?

…
!

私、覚悟は
出来てるわ

だから
何も言わないで
………

光
……

行こう

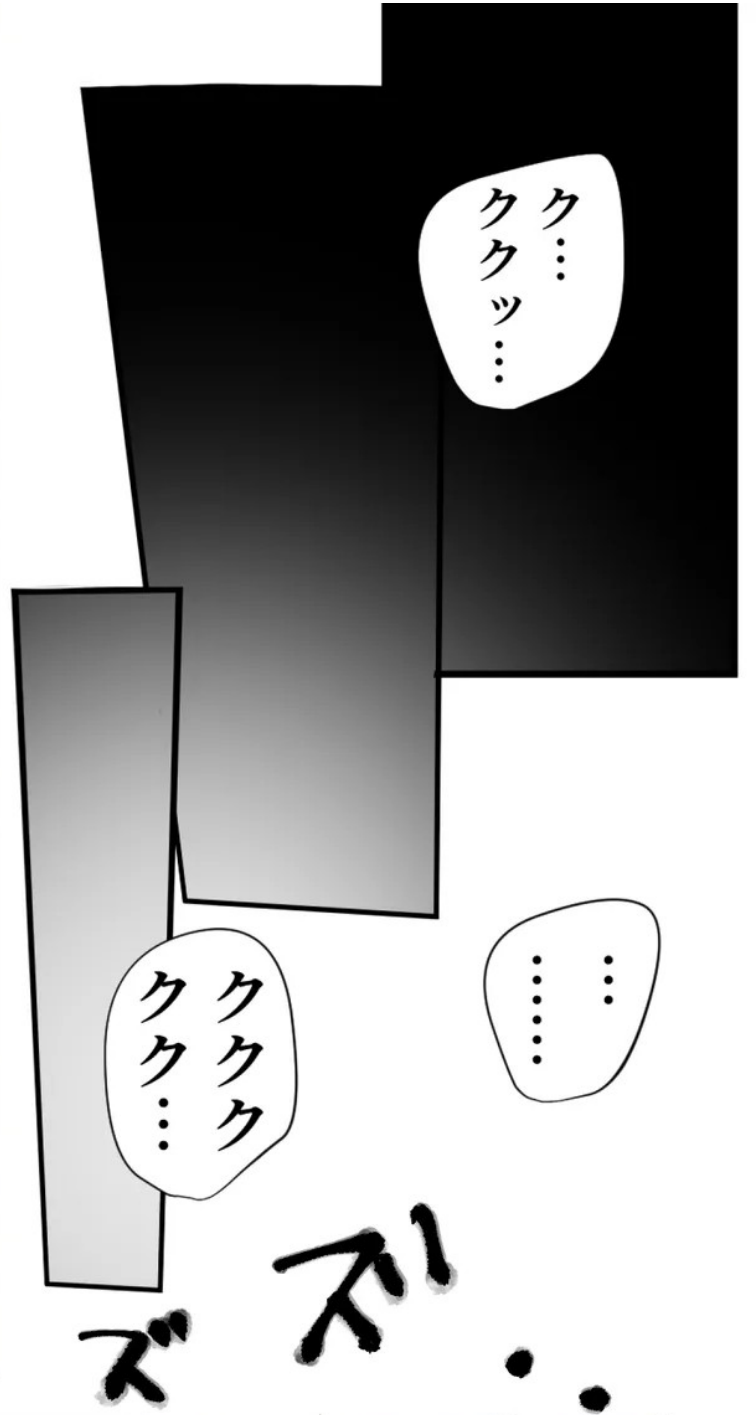
あの宇宙人は
私たちを待ってる



全て
順調……

問題は
ありません

ズ
ズ
ズ
ズ



クク
ククツツ……

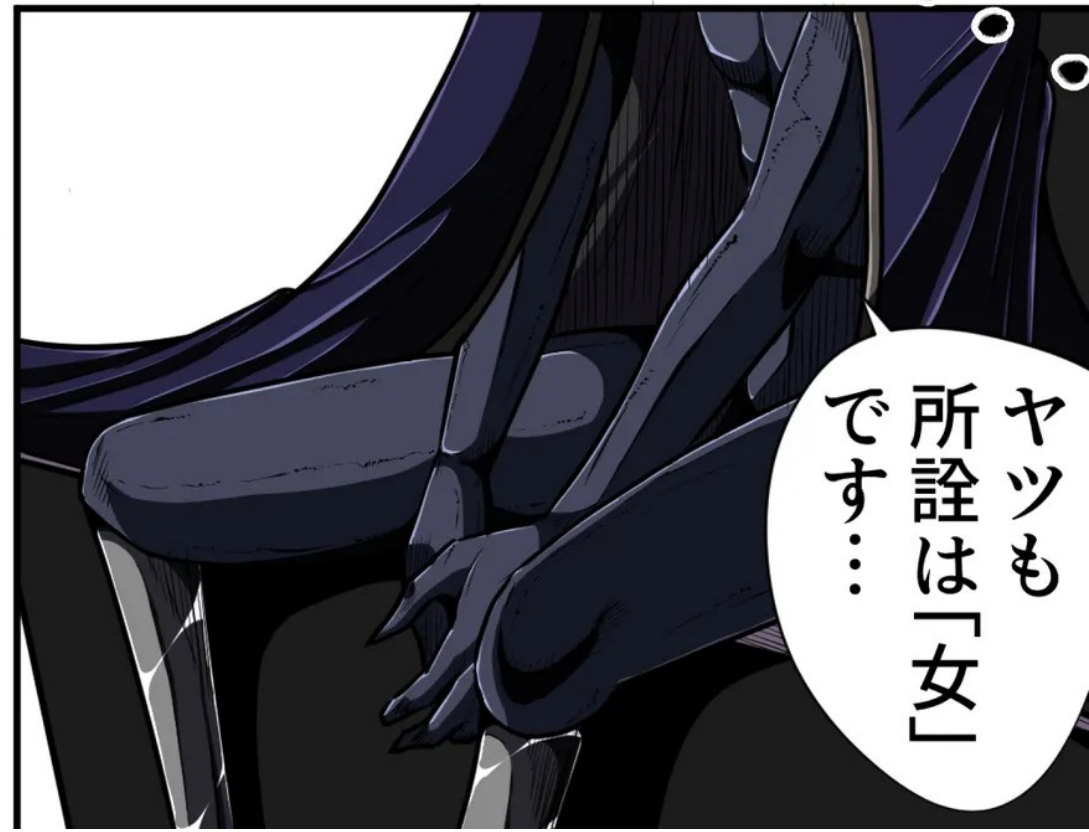
クククク
クククク……

……

ズ
ズ
ズ……



ズ
ズ
ズ……



ヤツも
所詮は「女」
です……



疲労、そして

抗えぬ快樂の
余韻も残した




力は
削いだ……



もはや
戦える体では
ないはず

いかな
ファイオラ皇女
とて……



今なら
あの女は
ほぼ無力……！

撈^{なぶ}るも犯すも
我々の思うがまま
です……！！

クククク……

あとは
待つだけです……

……

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

必ず来ますよ、
あのファイオラ皇女
なら……！

負ける……



勝機など
無い、と……

わかって

いて……
ね



光、聞いて。
戦い方について
なんだけど……

……うん……

さつきも
話した通り……
今日の状態では私、
普段の半分も力は
出せないと思う……

……うん……

長期戦になれば
確実に……エネルギーが
切れてしまうわ

そうなって
しまったら……
まず
私達に勝機は……

だから……

……

敵がどんな相手
だろうと、最初から
ありつたけ……!!

全開でいく……!!

光もそのつもりで
私に気持ちを
合わせて欲しいの

一緒に……!!



…わか…った…

…



…ありがとう
ファイオラ…

私の気持ちを
わかってくれて…



一緒に…

戦ってほしいの…!!

いこう!!!
ファイオラ!!!

光!!!

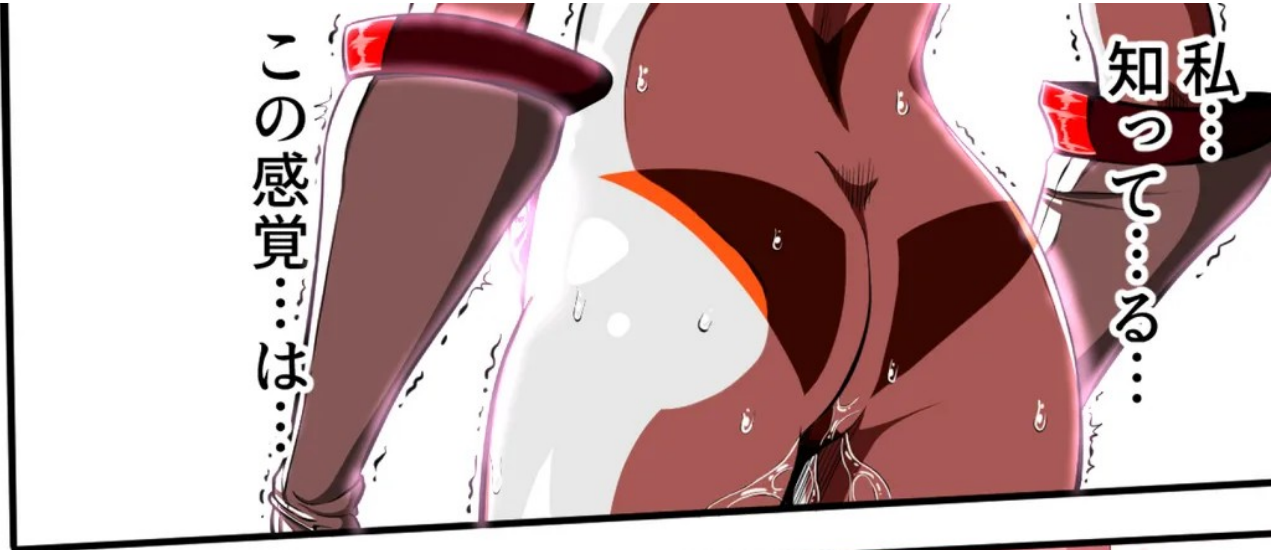
あなた

貴女となら

私は負けない!!!







私…
知…
つ…
て…
る…

この感覚…は…



あ…あ…の…とき…の…

あ…の…とき…の…
感…じ…
ワ…ン…!!



あ…あ…の…とき…の…

あ…あ…の…とき…の…
感…じ…
ワ…ン…!!



全…身…が…
熱…く…
な…つ…
て…
!!

感…覚…が…
敏…感…に…
!!

こ…れ…
間…違…い…
な…ら…
!!

お…思い出すのも
おぞましい……

あ

あのとけ

の……!!

の……

とけの……

……!!

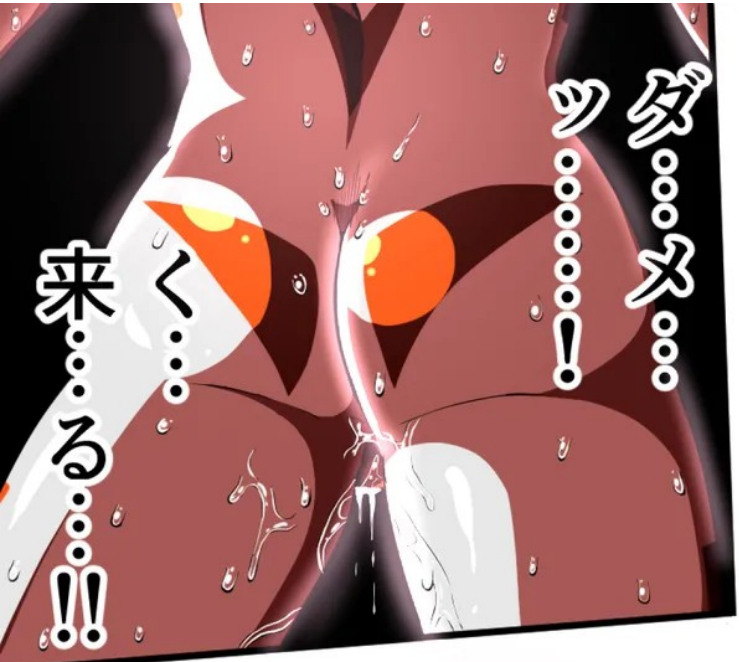
ド



あ
の
…

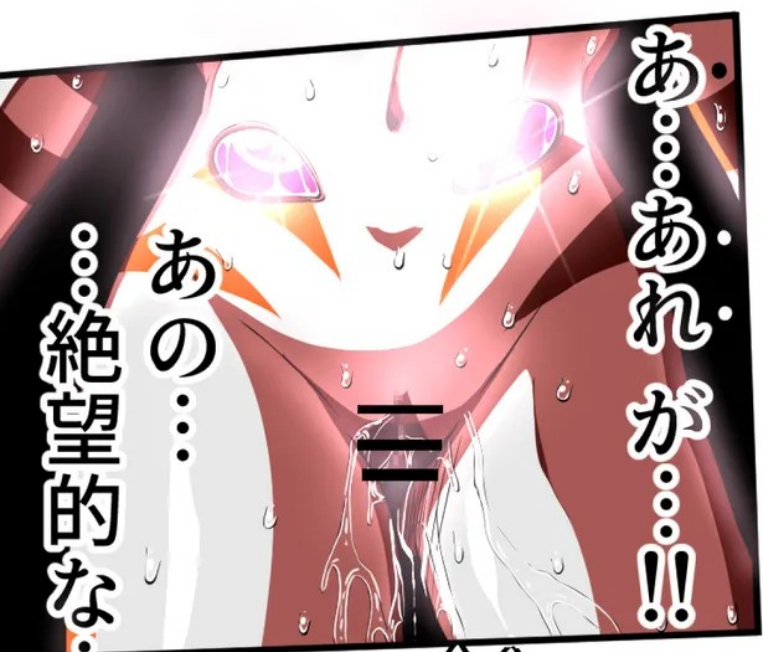
あ
の

…
!!!



来…る…!!

ダ…メ…
ッ…!!



あ…あ…れ…が…!!

あ…の…
…絶望的…な…



あ…の…と…き…の…
感…覚…が…!!

あ…あ…

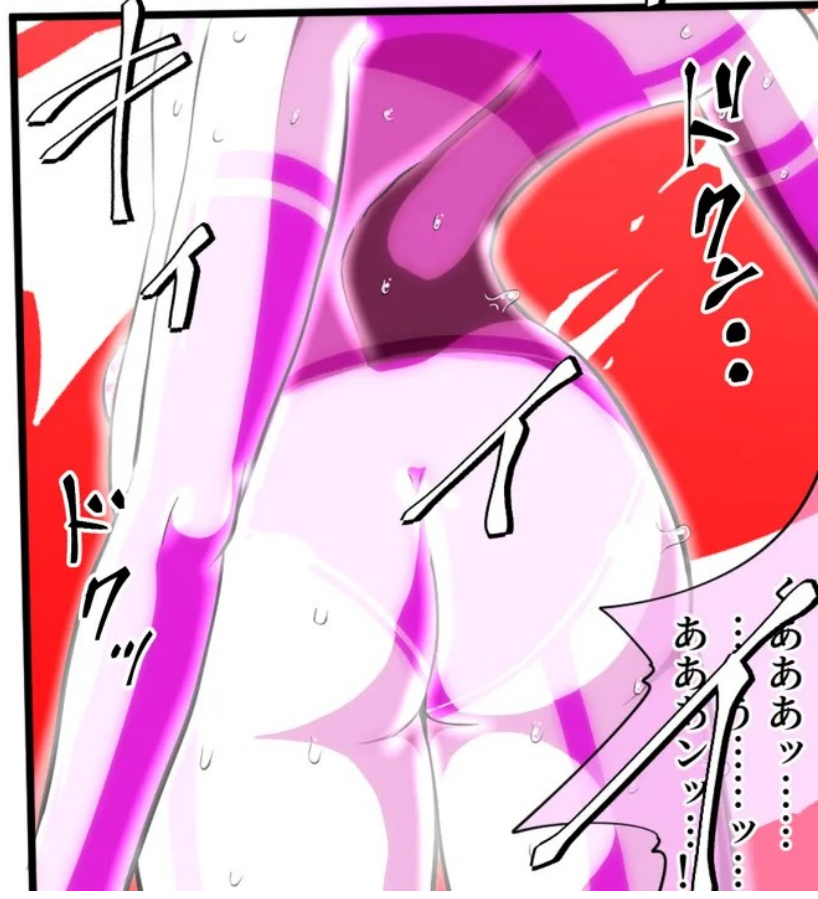
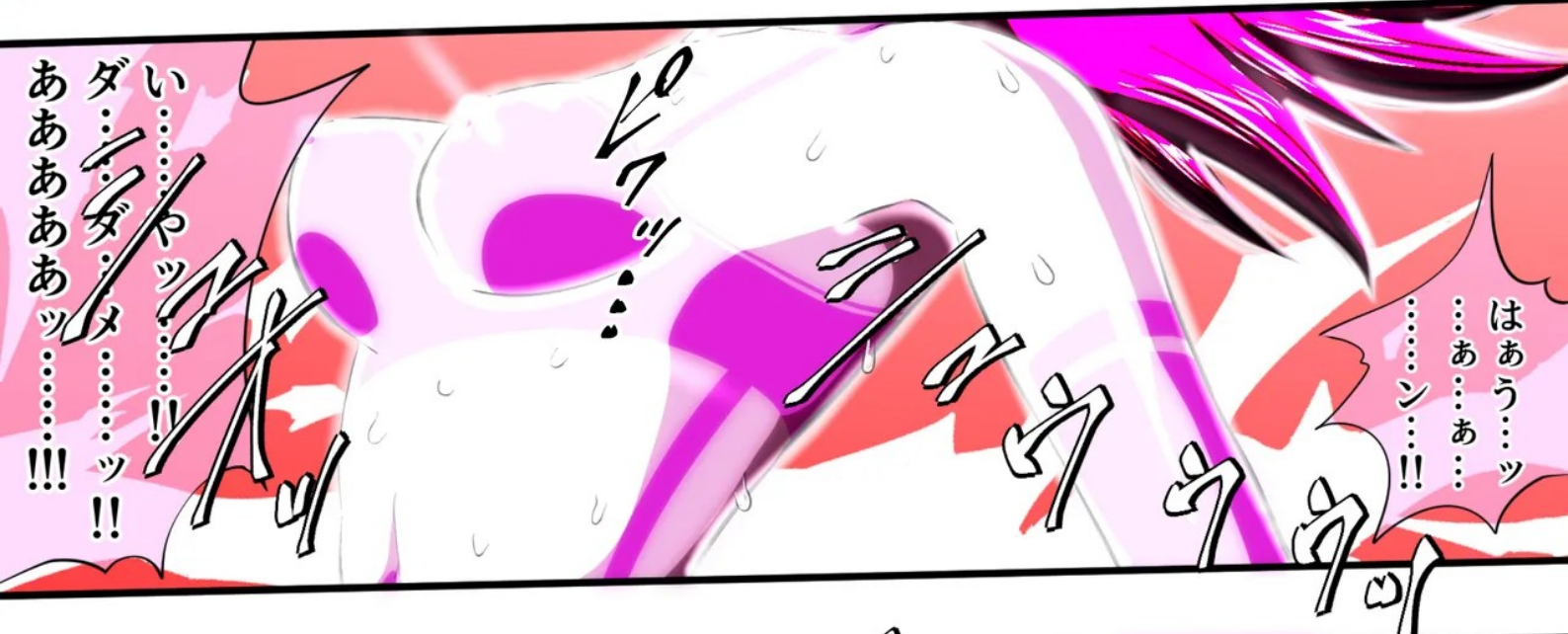
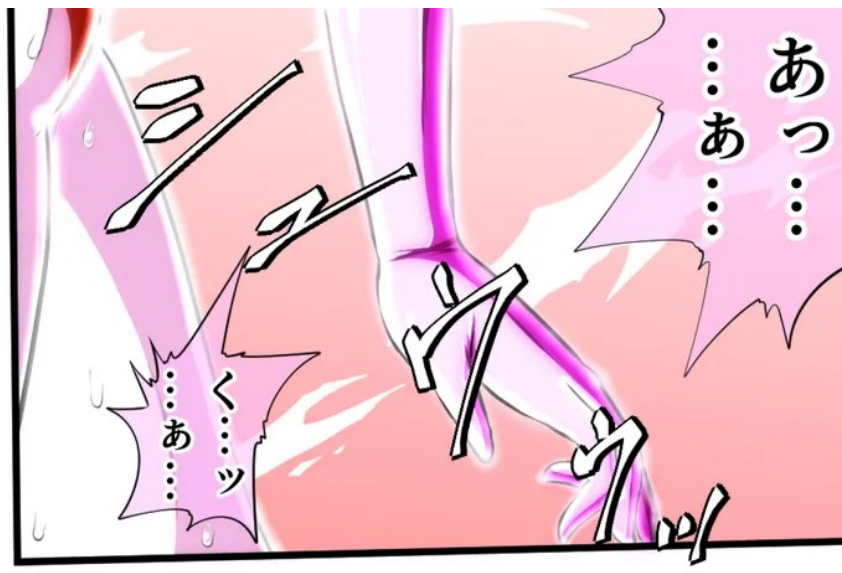


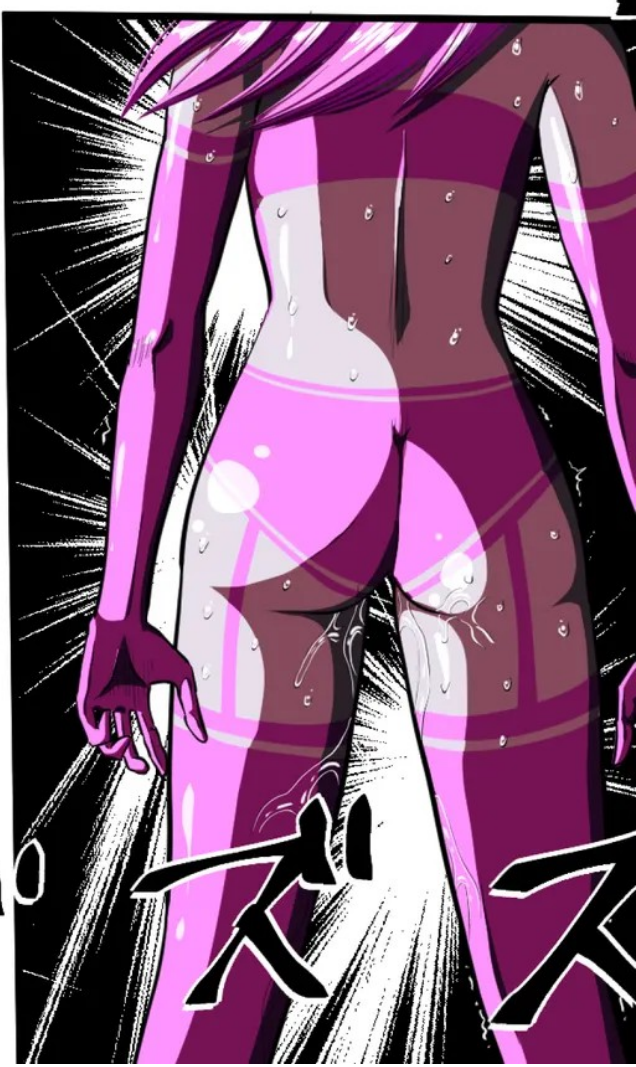
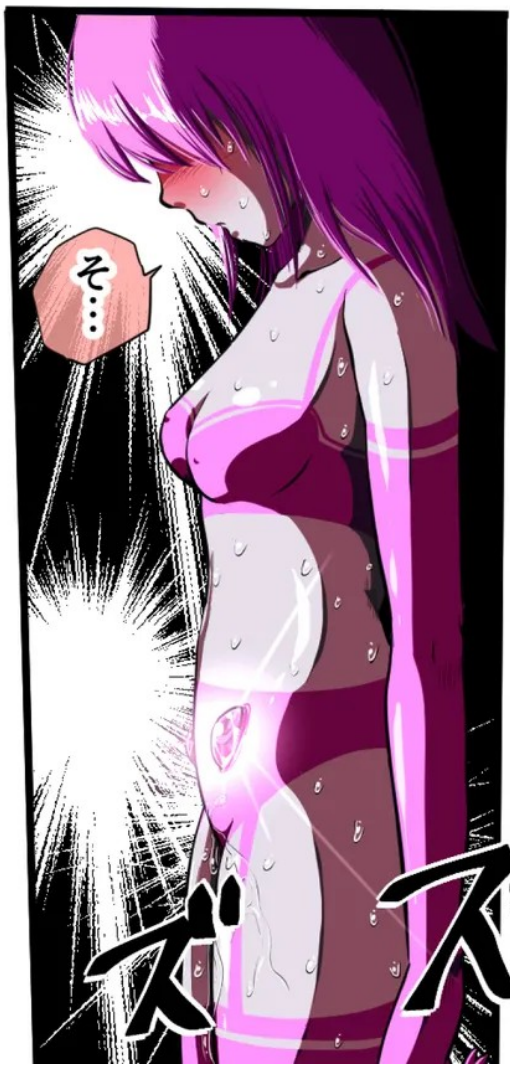
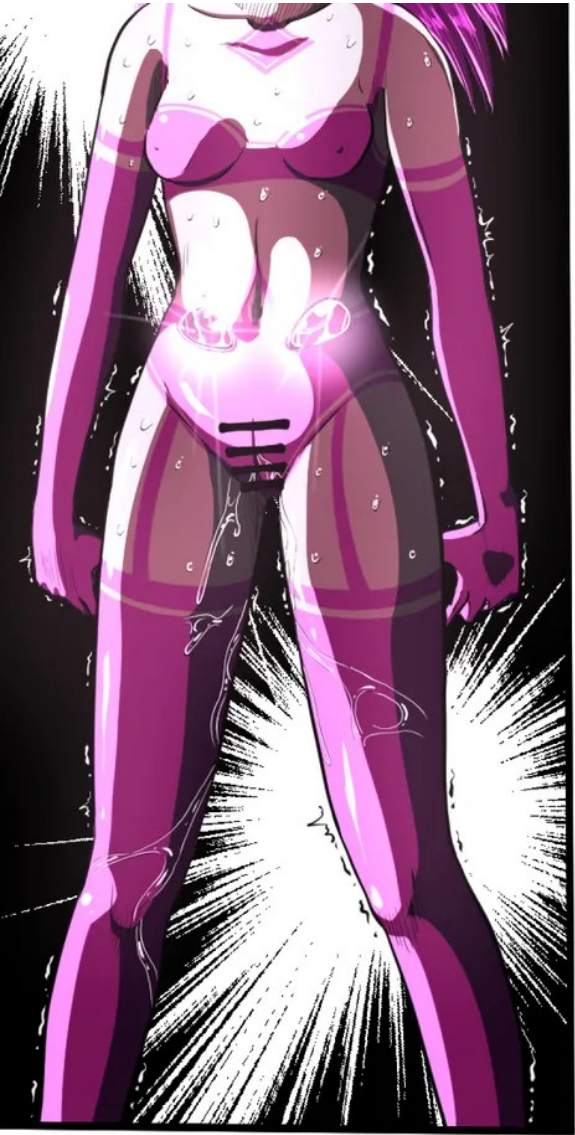
く…あ…ッ…!!?

う…ッ…!!
…ふ…ふ…!!

あ…あ…あ…あ…
あ…あ…あ…あ…!!

あ…あ…





ファイ…ファイオ…ラ？
これ…一体…

…
…

ど…どうした…の!?!
カラダ…変わっ…て…

ブルッ
ブルッ
ブルッ

…そ…んな…
そんな…ツツ…

…これ…は…
あのとき…の…!!

ファイオ…ラッ…!
だ…大丈夫ツツ…!!

く…う…
…あ…

返事…して…っ
ファイ…オラ…ツツ…!!!

も…う…
もう…ダメ
かも…

キュ



ファイオラ……？

ファイ……

ズツ



……何も……

……何も……
聞かないで……
……光……



行こう……

ズツ

私たちには
時間が……

時間が……
ないわ……！



弱気になっちゃ
ダメ……！！

この星の皆を
守るんだ……！！

光を守り抜く
んだ……！！



ズツ

ズツ

ククク…
そろそろ来るか…?
フィオラ…

敗けると
わかっていながら
ー…

傷つきさらばえ…
疼くカラダを
抑えつけないがらー…

…楽しみだ…
実に楽しみ…!!

美しいお前をじっぺりと
じっぺりとー…

オモチャに
してやるから
な…!!

せいぜい
最期まで
あらがうが
いい…

お前には
今日…

確実に

ー…
死んで
もらう

ククク…

ククク…
ククク…

戦いが
はじまれば
思い知るだろう...

ズン

おまえには
万に一つの
勝機もない
ことを...

ズン...

クウウ...

せいせい
絶望するが
いいぞ...
クク...!

敵は...
2匹...!!

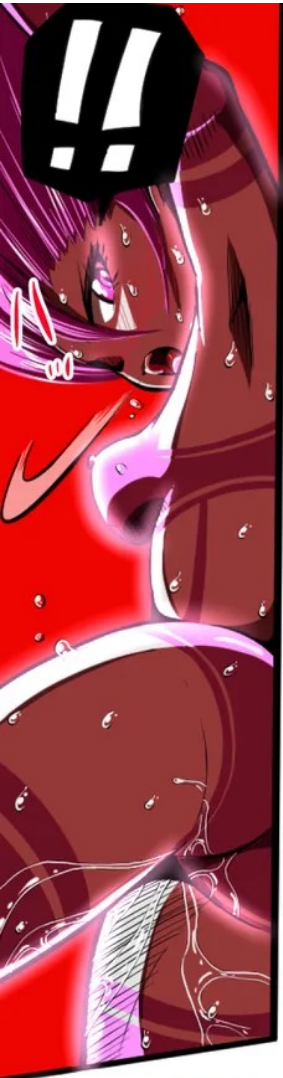
この状況で
数でも不利だ
なんて...

...いえ.....

あの星人も
必ず...現れる
はず...!!



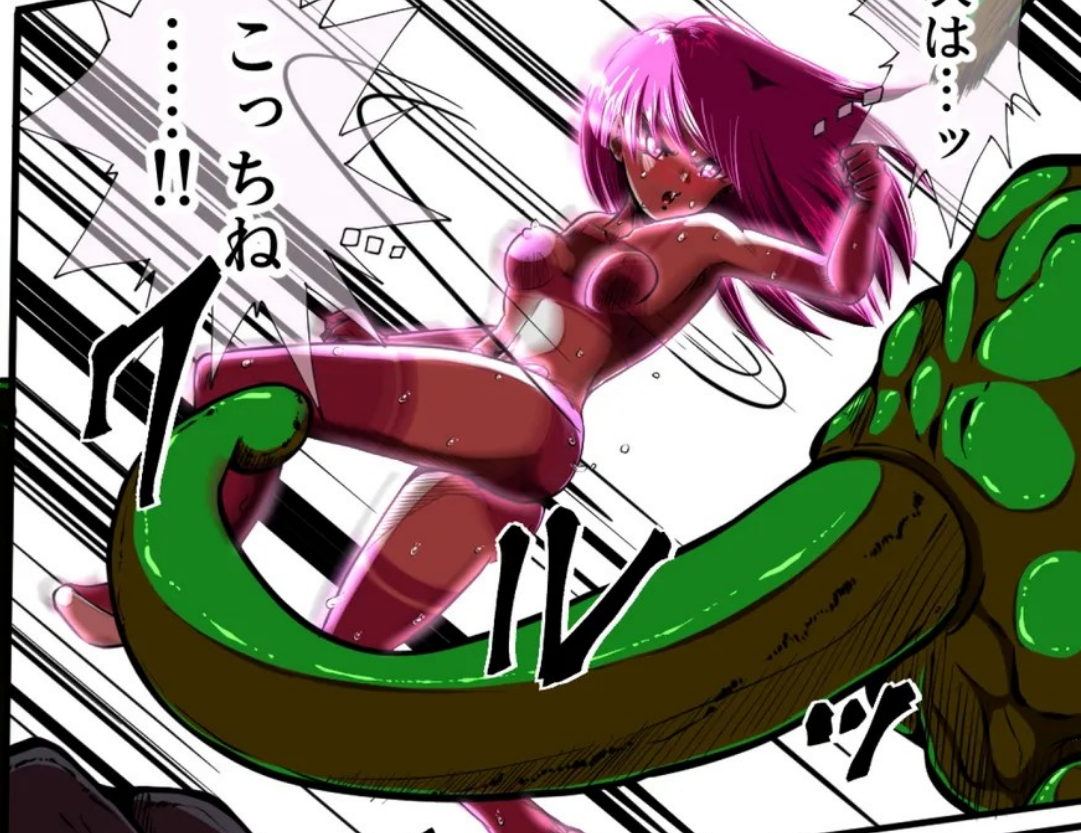




はぁあ
あッ!!



決める!!!



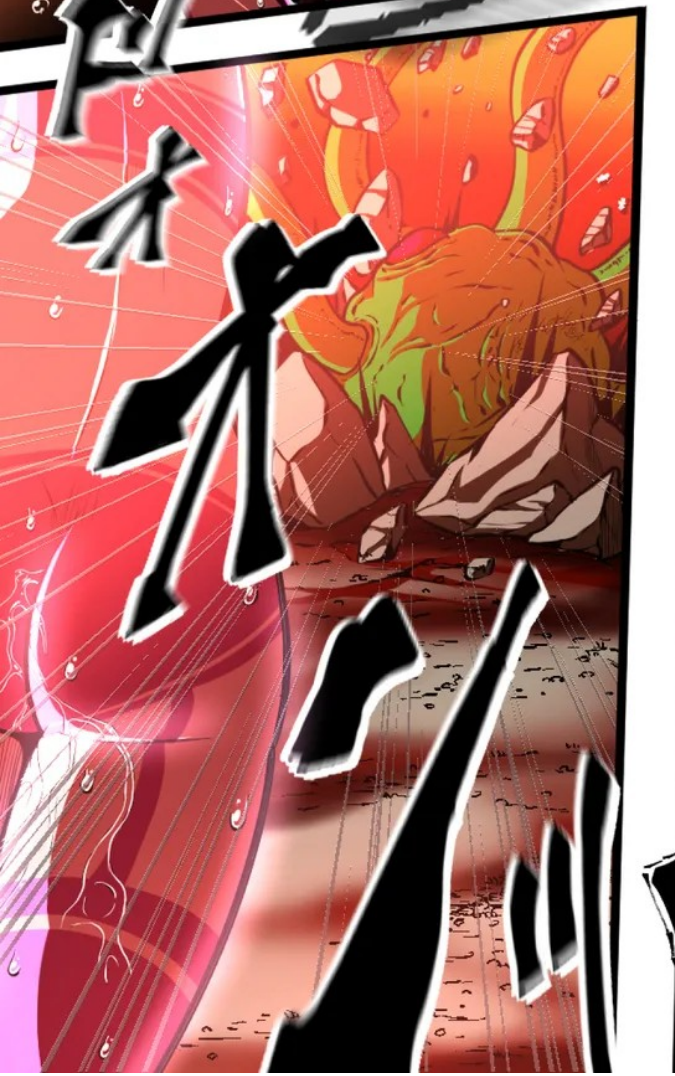
次は...ッ

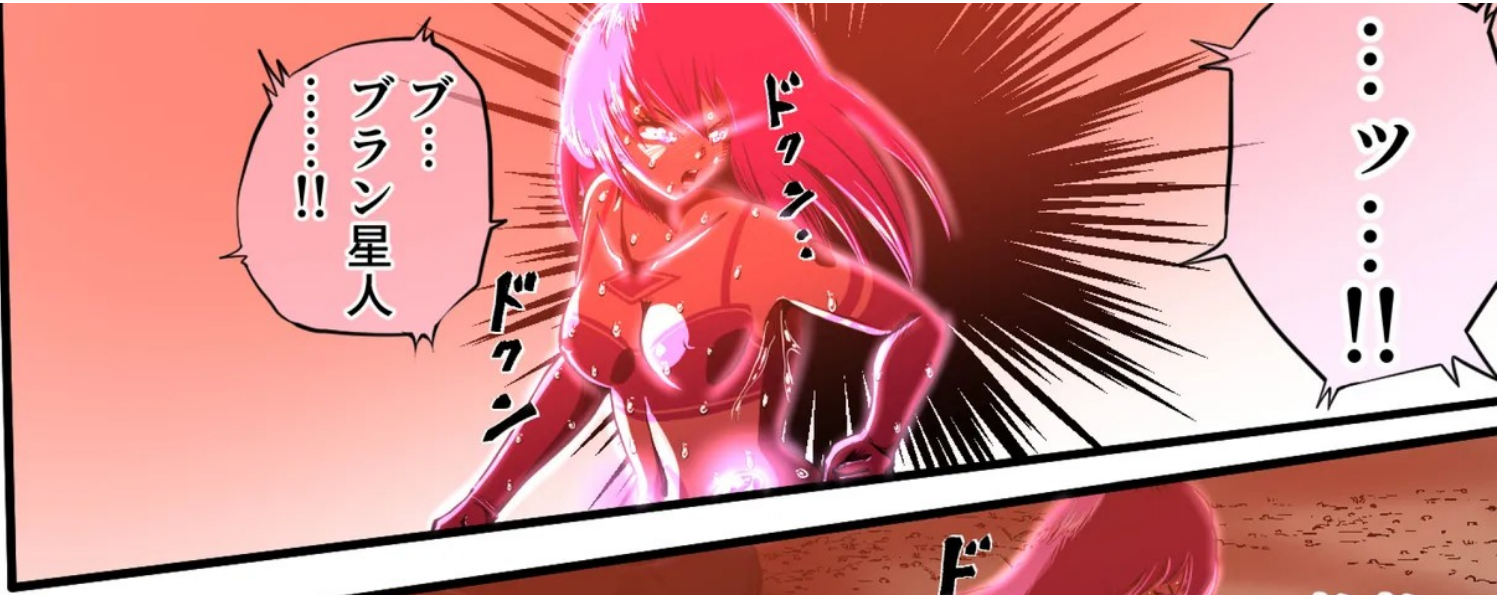
こっちね
...!!



これで
.....

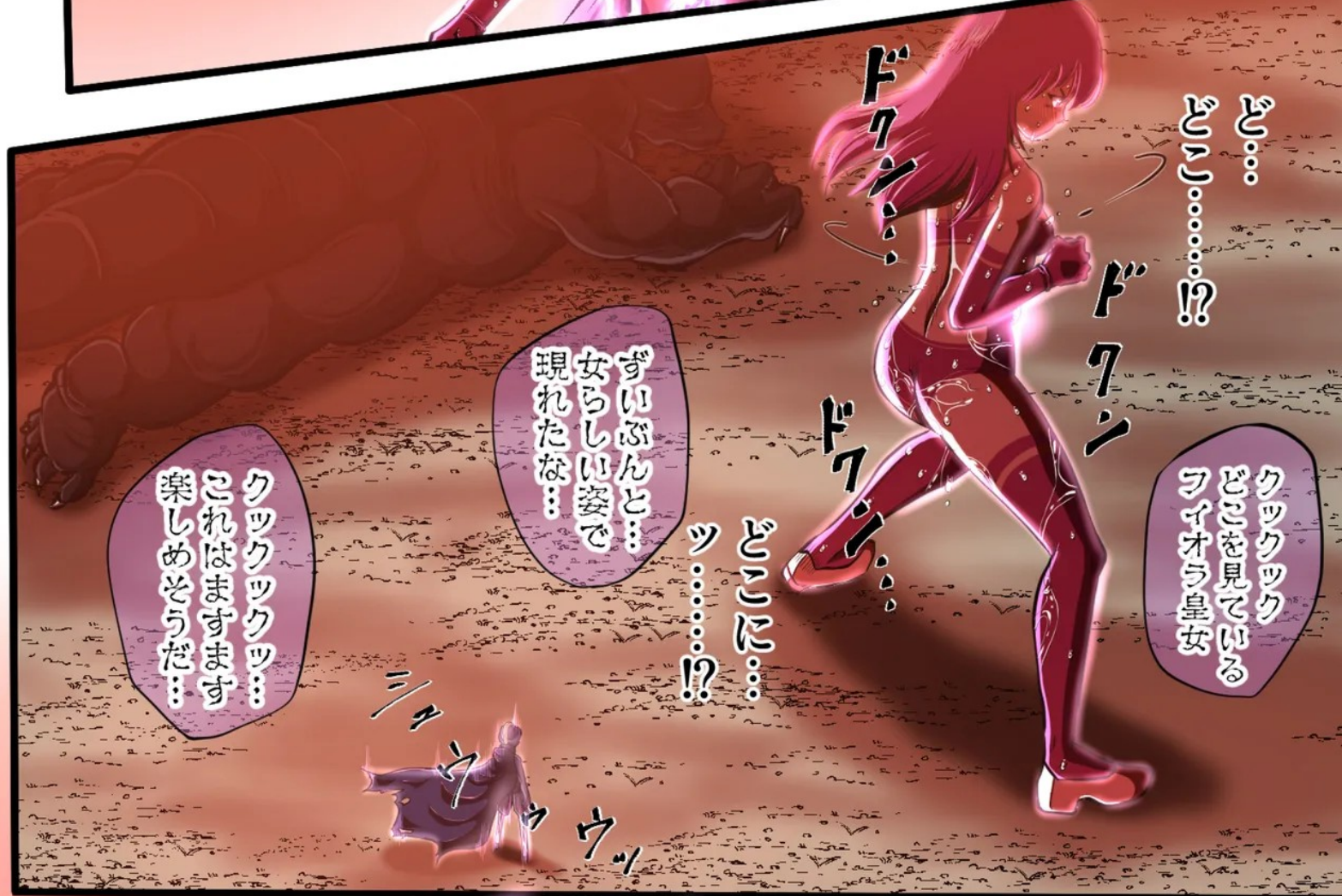
一気にッ
.....





ブ…
ブラン星人
……!!

…ツ
…!!



どく…
どく…!!

クツクツクツ
どこを見ている
ファイオラ皇女

ずいふんと…
女らしい姿で
現れたな…

どく…!!

クツクツクツ…
これはますます
楽しめそうだ…



出てきた
わね…!!

あの針の
効果が…

クク…これは
うれしい誤算
だな…



クク、ようやく
美しい皇女様

そのカラダで
よく来たな…

キ

クククク…
バカな女だ

本当にやって
来るとはな

この星の生物など
…捨て置けば
いいものを…

宇宙警備隊隊員の
矜持というものかな？
それとも皇女としての
誇りか？

言ったはず
よ…

貴様…は

光を執拗に
傷つけた貴様
だけは…

絶対に

許さない

…ツ…!!

ニヤ…

ニヤ

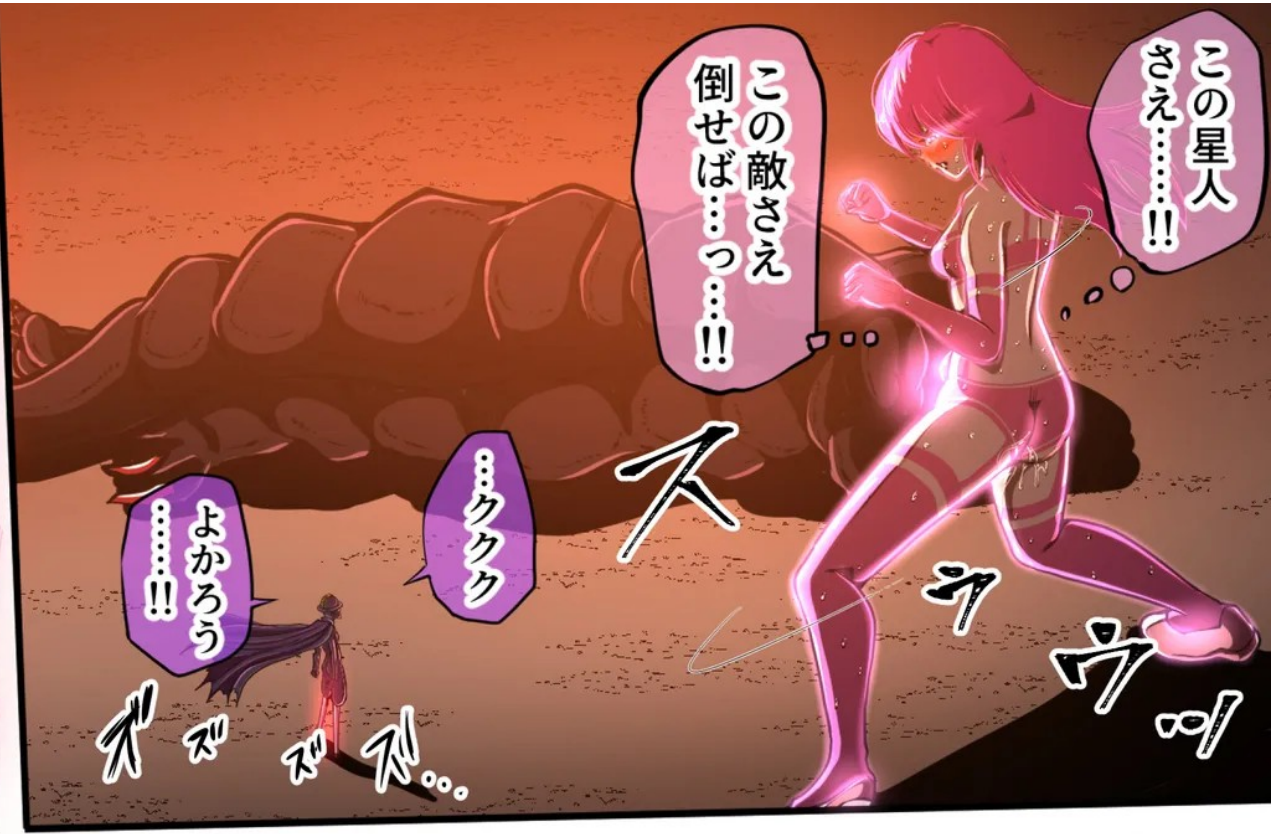
…クク…



戦うんだな

クク...

この私と



この星人
さえ...!!

この敵さえ
倒せば...!!

ククク

よからう
...!!

ズ

ズズズズ...



はあ...
では...

ニヤリ

光...
もう少し...!!

もう少し
頑張っ...!!

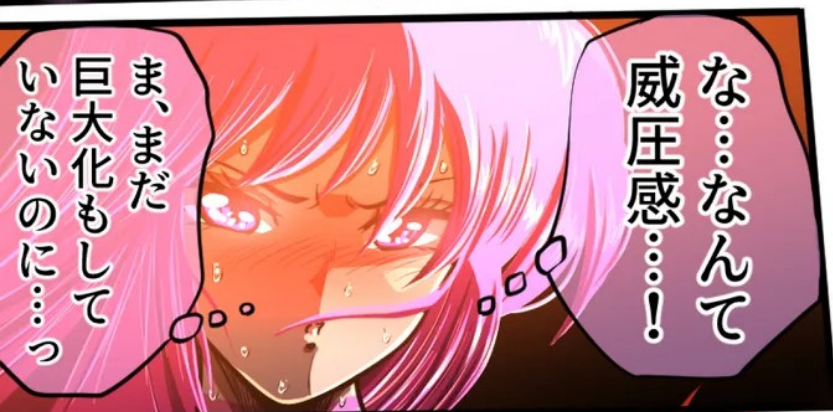
ハッ

はじめて
か...

ゴゴゴゴ



.....
ツ.....



な...なんて
威圧感...!

ま、まだ
巨大化もして
いないのに...っ



か...体が
.....!!

変わって
いく...!?



コホホホホ
ホホホホ...!!!

ダ...ウウウウ...

マアアアア
マアアアア...!!!

ズ
ズ

ズ
ズ



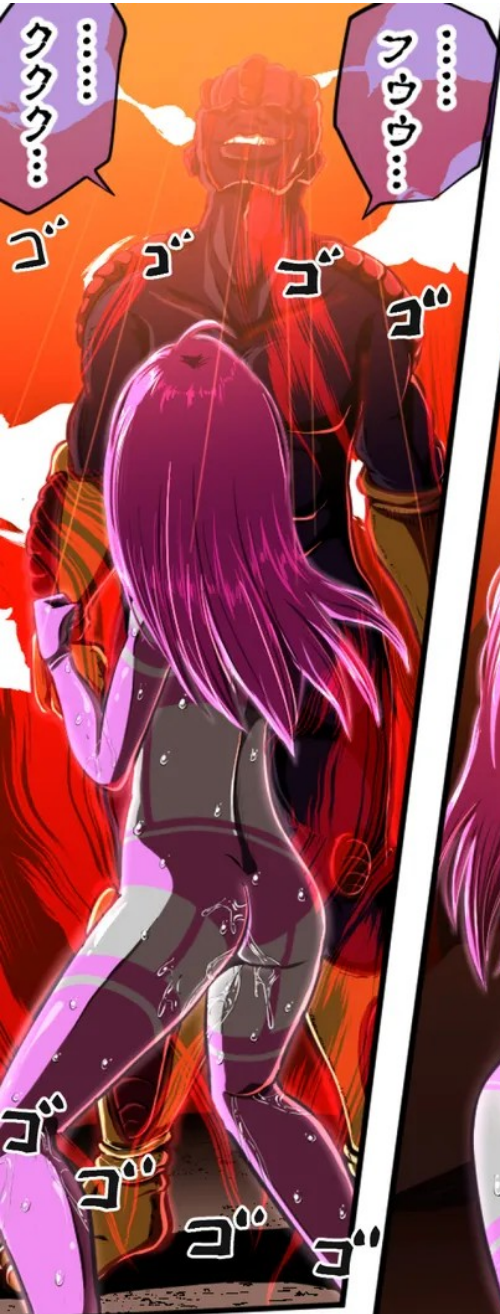
◆かばいあい、
想いあう…『ふたり』…

◆しかし敵は容赦なく…
光とファイオラを
追い詰める…!!

◆傷つきながらも
懸命に戦う、ファイオラと
光の運命は…!!



ファイオラ クライシスIV
～絶望のバトル!! 堕ちた皇女…!!?～



ククク...

フウフウ...

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

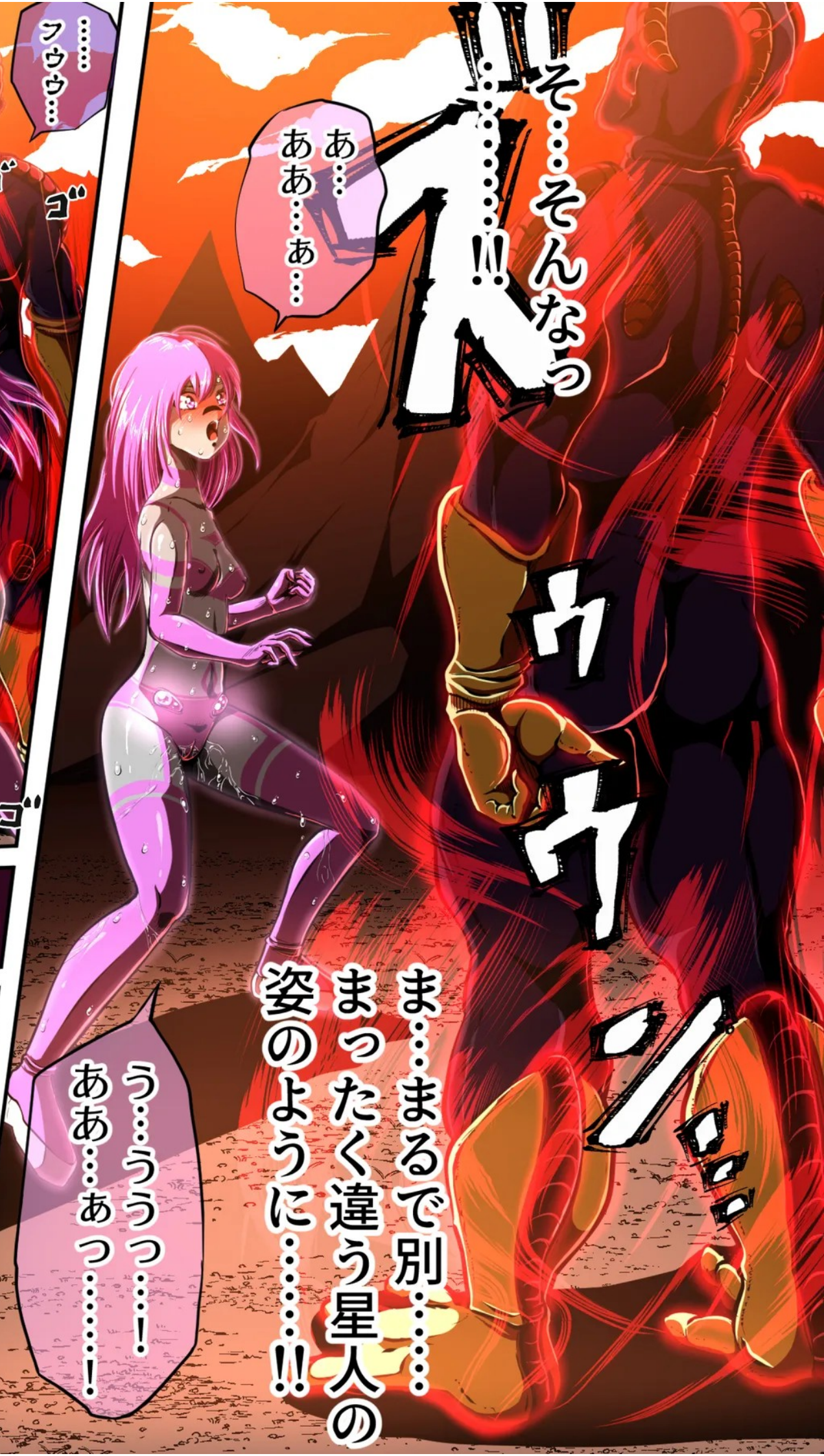
ゴ



く...っ

ツ

ツ



あ...
あ...
ああ...あ...

そ...そんなっ
!!

カッ
カッ

う...ううっ...!
ああ...あっ...!!

ま...まるで別...
まったく違う星人の
姿のように...!!



…ククク
恐いか？

……ッ……

ン……？
クククク……

昨日言った
通りだがよ……



……ッ……

ビワッ



今日、
……ッ……

キサマには
死んでもいい
……ッ……



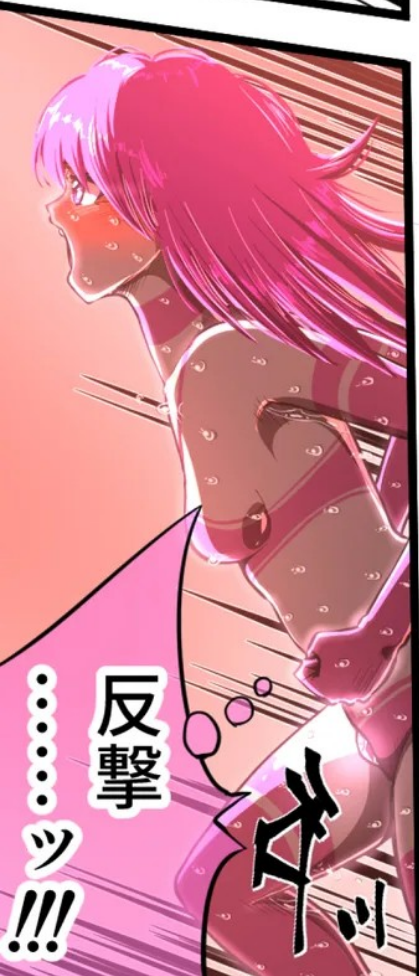
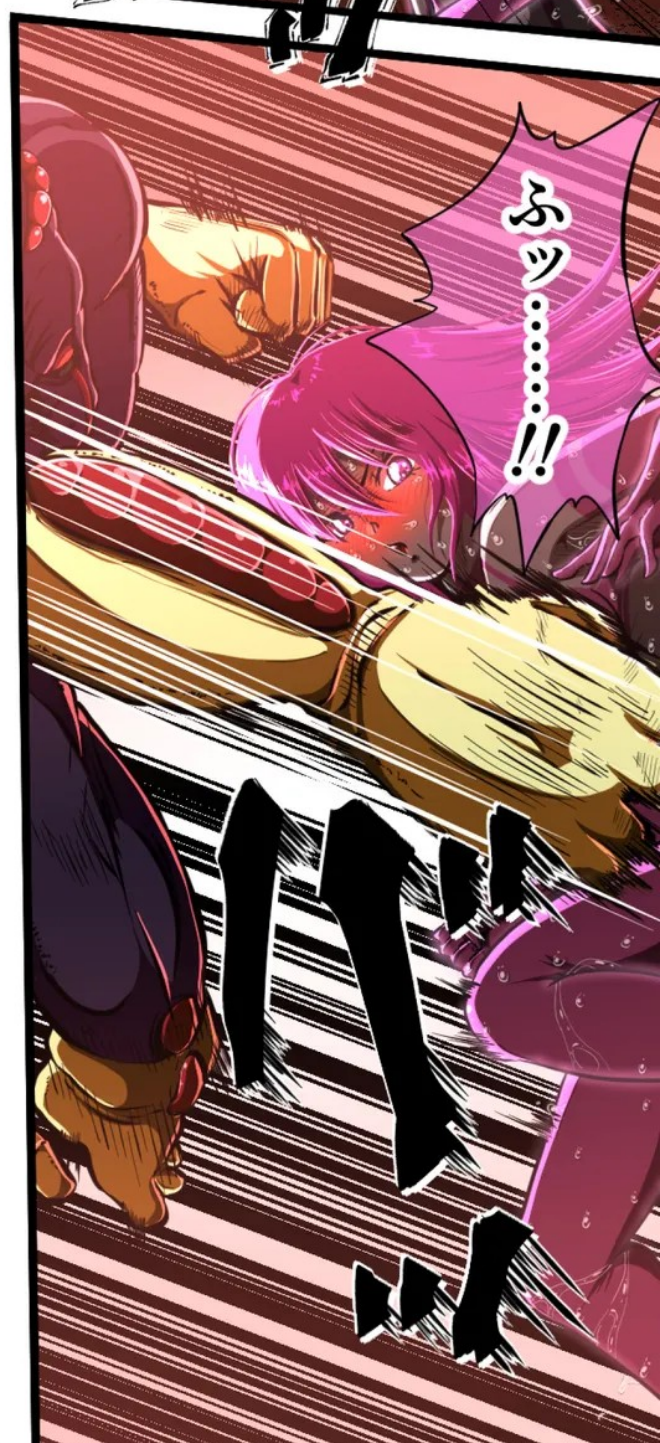
せりせり
あらがえ……！

オレを
楽しませろ
……！！

女ヲツ！！



ククク



大振り
よ…ツ!!

そんな攻撃
当たるわけない
わ…ツ!!

反撃

…ツ!!!

ふッ…!!



!?

?

ズン

ズン

ズン

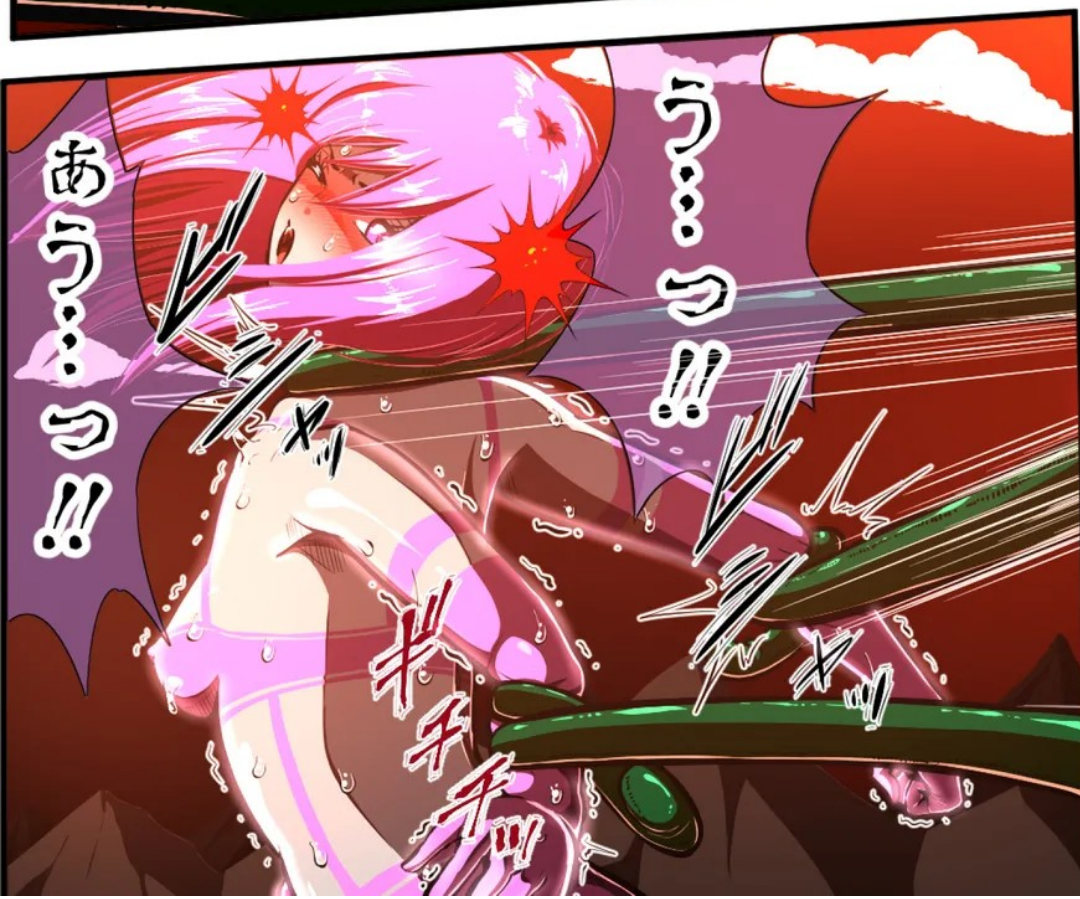
ズン



ウネ...

ウネ...

ウネ



あう...っ!!

あう...!!

ズン

ズン

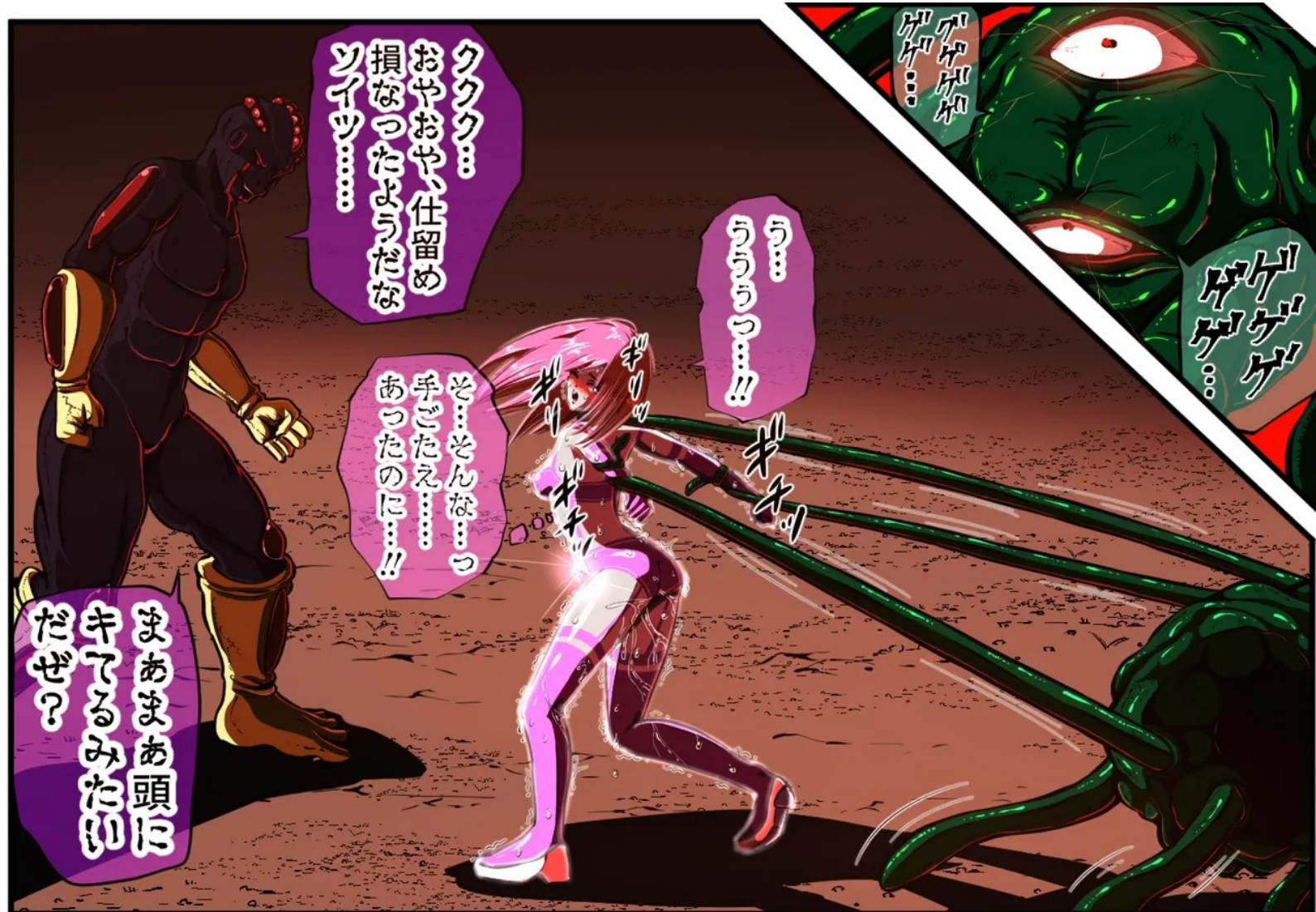


ズン

ククク...

ククク...

ククク...



ククク…
おやおや、仕留め
損なつたようだな
ソイツ……

う…
う…
う…
う…
う…
う…

そ…そんな…
手ごたえ…
あつたのに…!!

まあまあ頭に
キてるみたい
だぜ？

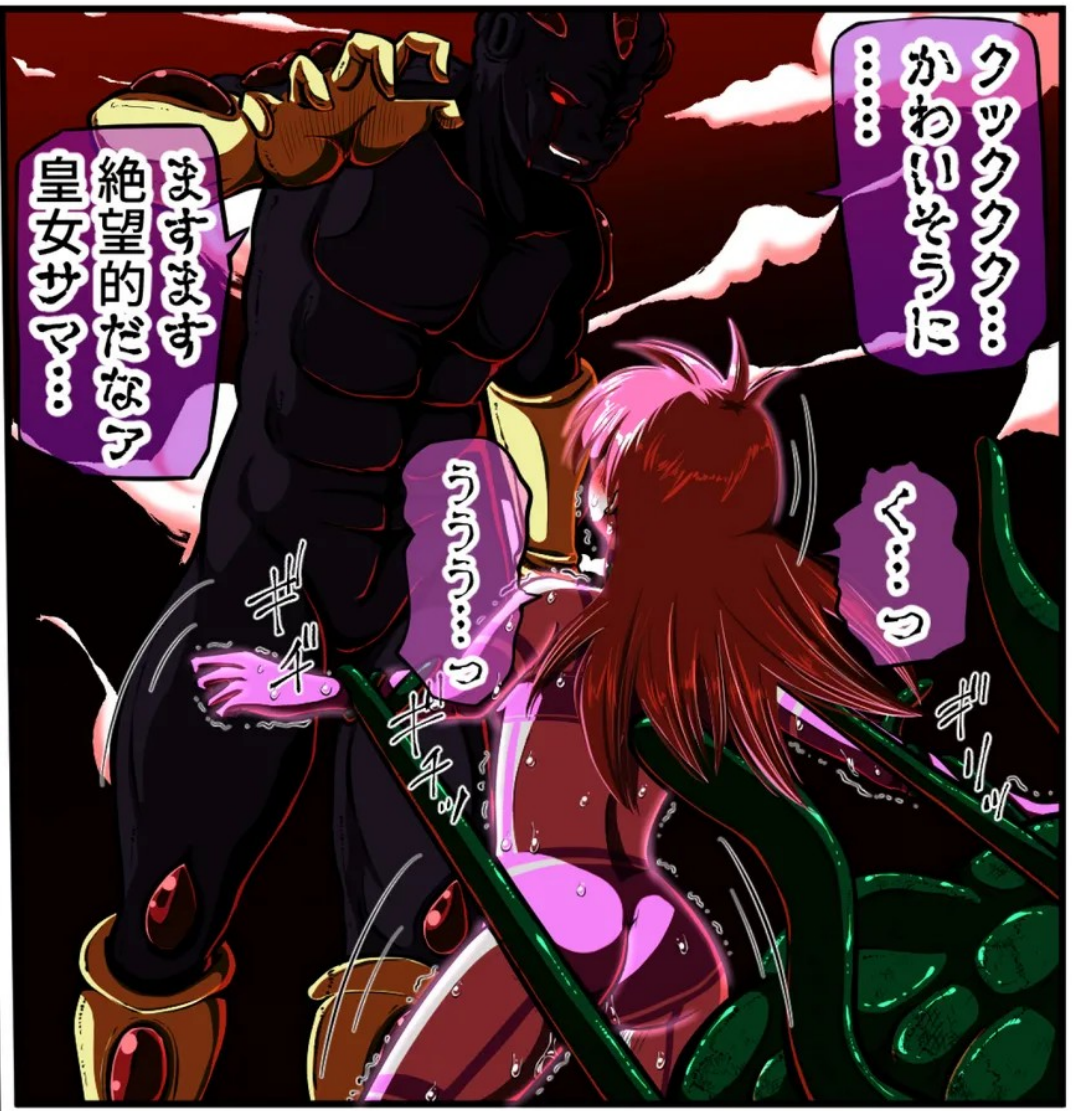
ガガガガ
ガガガガ
ガガ…

ガガガガ
ガガガガ
ガガガガ



…怖いか？
ククク…

う…
う…
ああ…

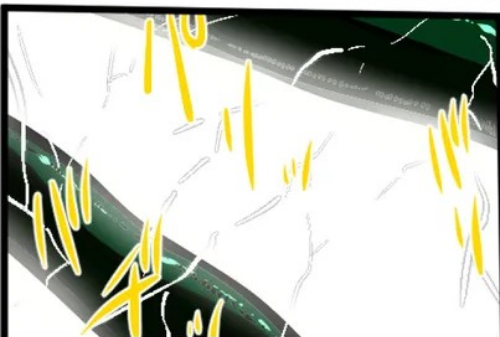


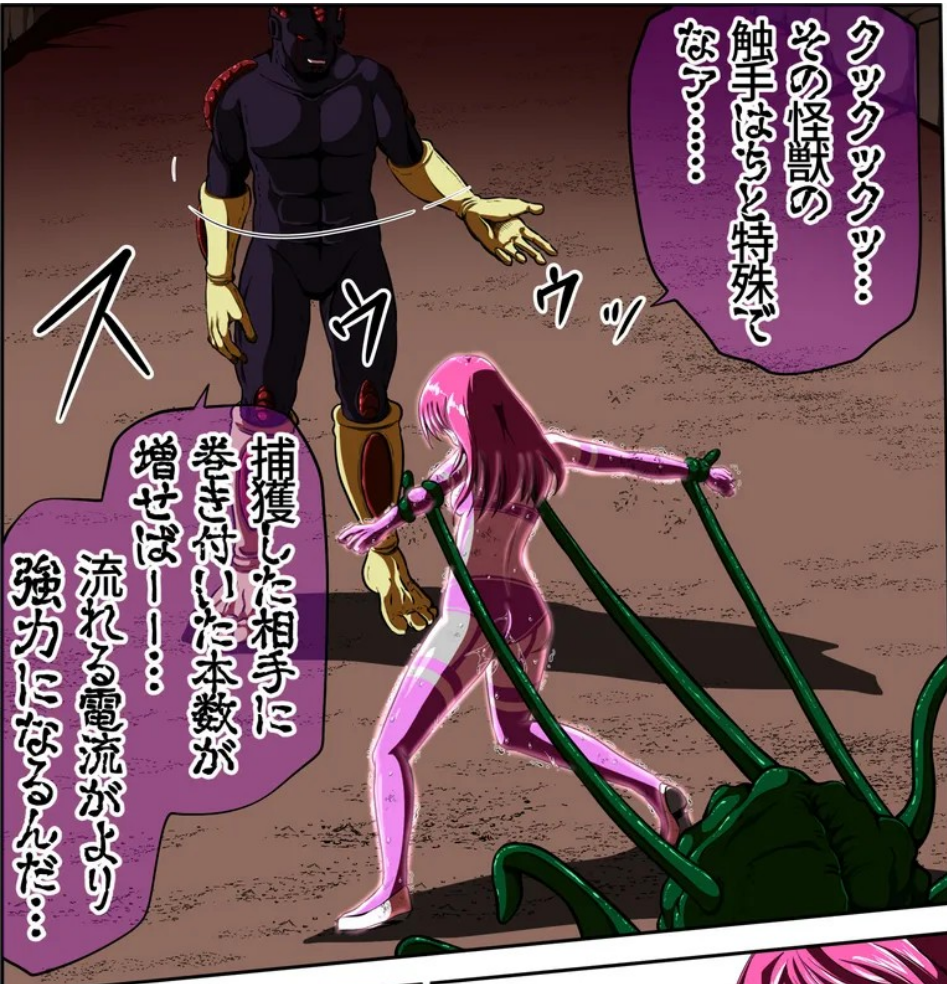
クツクツク…
かわいそうに
…

ますます
絶望的だな
皇女さま…

う…
う…
う…

う…
う…
う…





クツクツクツ...
その怪獣の
触手はちと特殊で
なア...

↑

捕獲した相手に
巻き付いた本数が
増せば...
流れる電流がより
強力になるんだ...



身体に...
力...が.....

力が.....
入ら...ない...



ギ
ロ
ツ

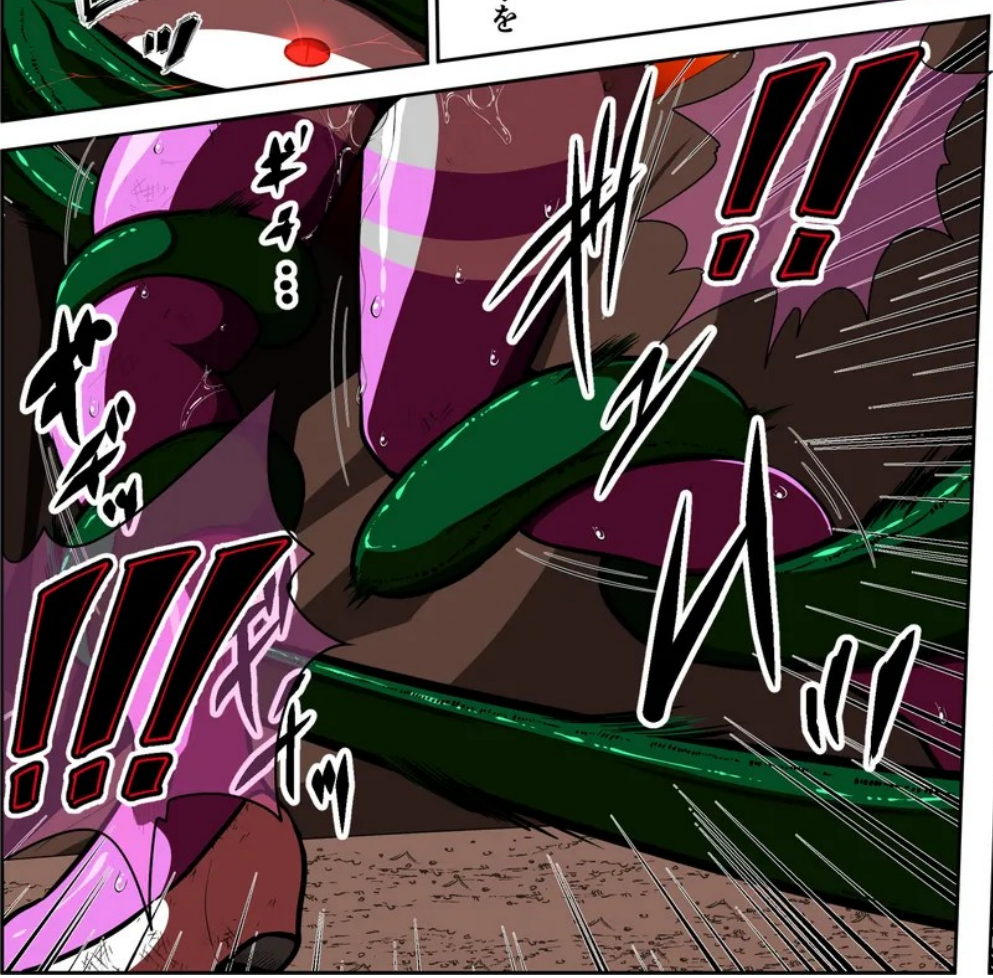


こ...この
脱力...感...
今の電撃で
すでに...

...う...
う...

う...
う...

すでに...
光は...意識...を
.....



ギ
ギ

ギ
ギ

ギ
ギ

!!!

!!!

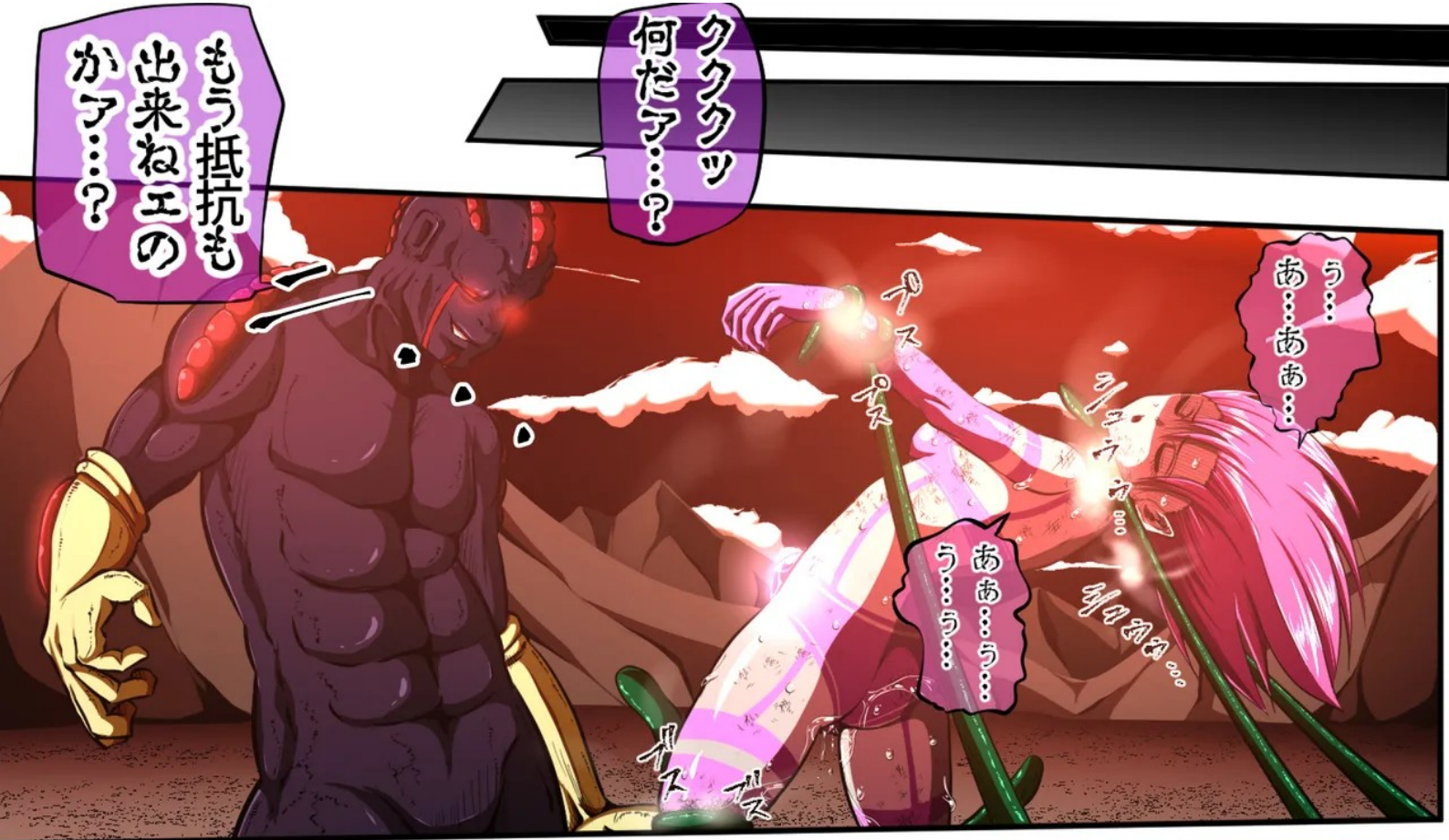


ギ
ギ

ギ
ギ

ギ
ギ

ギ
ギ



クククツ
何だア...?

もう抵抗も
出来ねエの
かア...?

う...
あ...ああ...

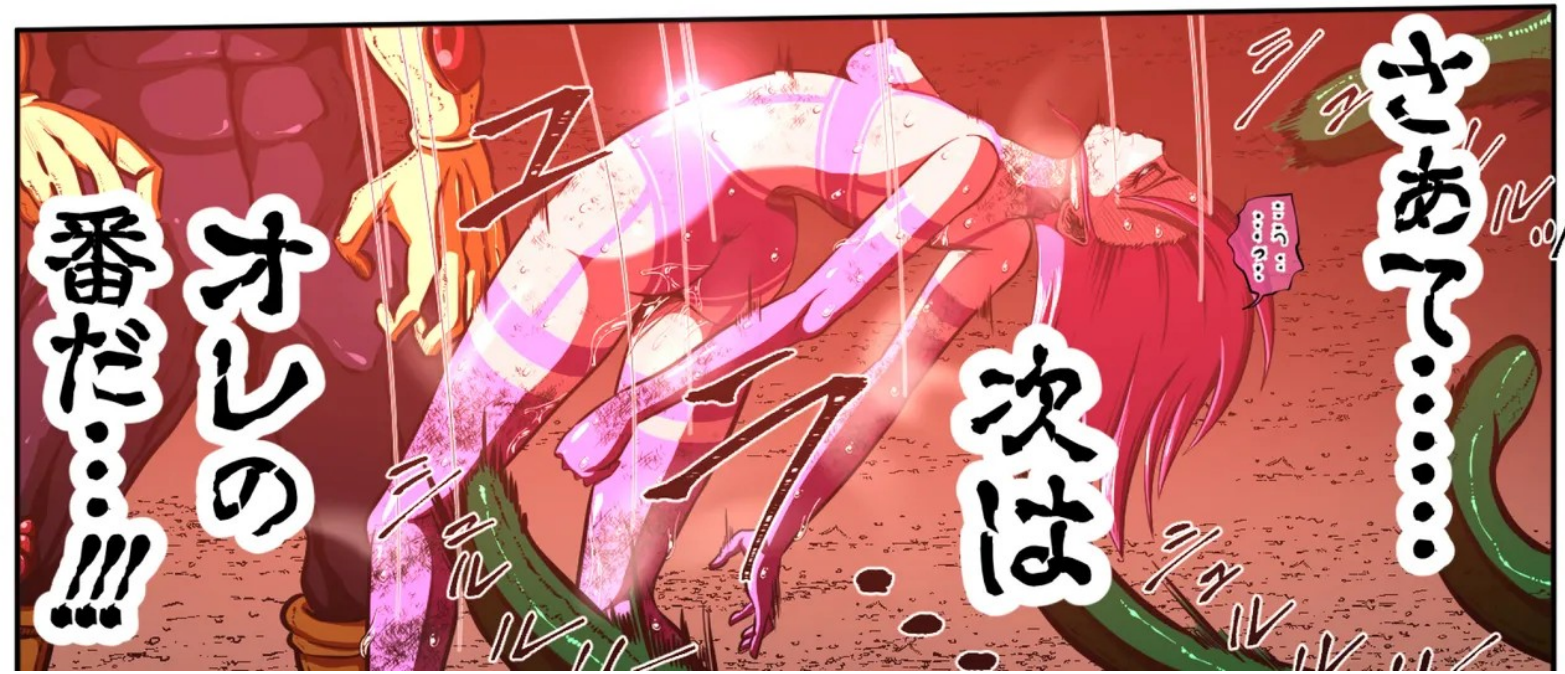
ああ...う...
う...う...



ケツ、しめ
ねエな...

オィ、どろどろ
はなしてやれ

ククククク
ククククク



オィ...
オィ...

次は

オレの

番だ...!!!

ごめんね
ひかる...

地球...の
みんな...

形の良い
乳だな...

ん？

おいおい...
揉んだだけで
軽くイったか？

わ...私...
も...う...

...ここに
来た...とき
か...ら...

クク、こりや
イイぜ...
揉みまくって
やる...!!

も...う...
限...界...だった
みた...い...

...クク...
簡単に死ねると
思うなよ...

これからが
お楽しみなんだ
からな...

たっぷり
教えてやるよ

お前が所詮
『女』だって
いときな...

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

んんん!!

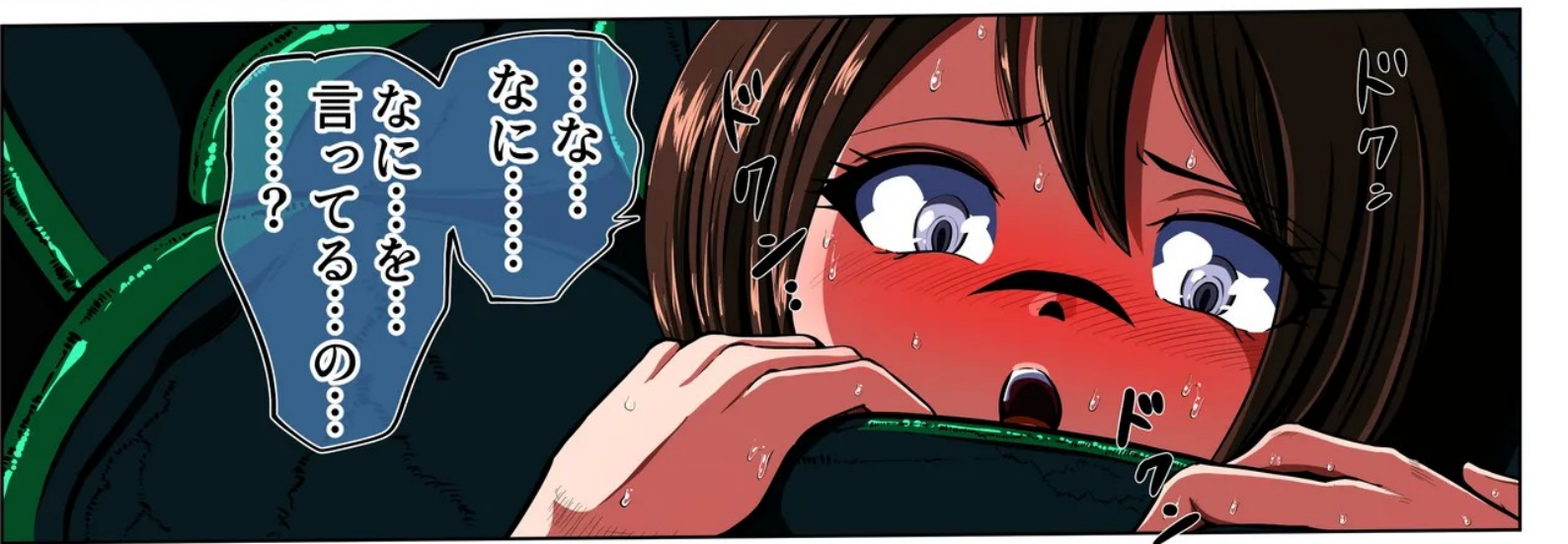
んんん!!



この皇女様
が………！！

メチヤクチヤに
ブチ犯される
ところを、な……
ククククク……

ギ
チ……
ギ
ギ
ギ



……な……
なに……
なに……を……
言ってる……の……
……？

ド
ク
ク

ド
ク
ク



……やめて……！！

……やめて……！！

ククク……
近くを見るぞ
おろろろ……

もっ
たおんおんせ
〜〜〜

お願い……！！
やめてツ……！！

ハ
ク
ク
ク

ククク...
ついで...

ついでに来たぞ
このときが...

ファイオラ様ア
——...

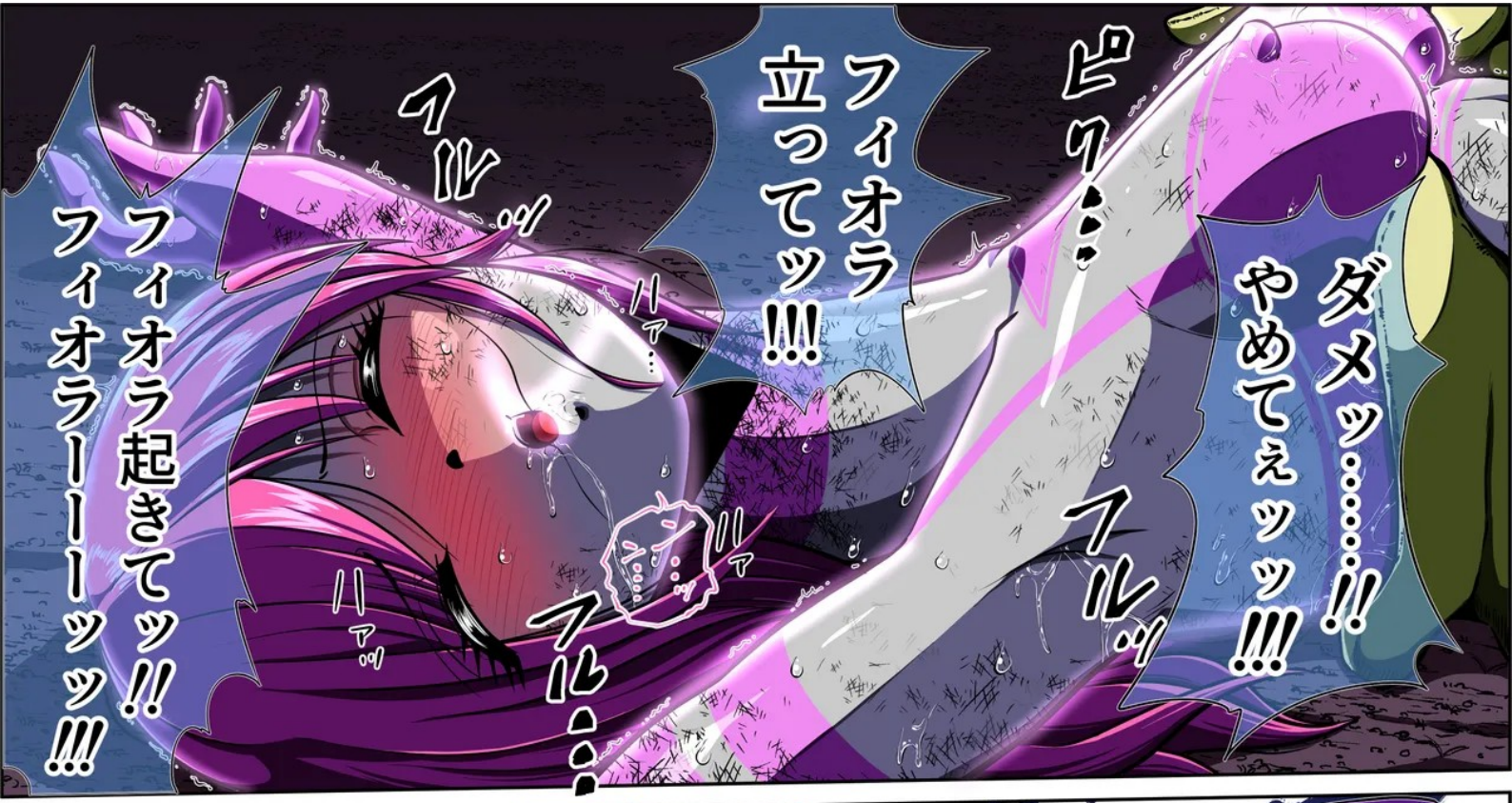
たっぷり
楽しもうぜ...

お前が
死ぬ前に
な...!

う...あ...
あ...あ...

う...あ...
あ...あ...





ダメツ……!!
やめてえツツ!!!

ファイオラ
立ってツ!!!

ファイオラ起きてツ!!
ファイオラーツツ!!!



クク…
ムダだな

こいつは
もう…!!

お前の知ってる
ファイオラ皇女じゃ
ねえ……!!

は…!!



たはたの

「女」
は…!!



クククツ……！
いいぞ……っ……

たっぷり……
なかに……
腔内に……

射精して
やるぜ……！！

ズ
ズ
ズ

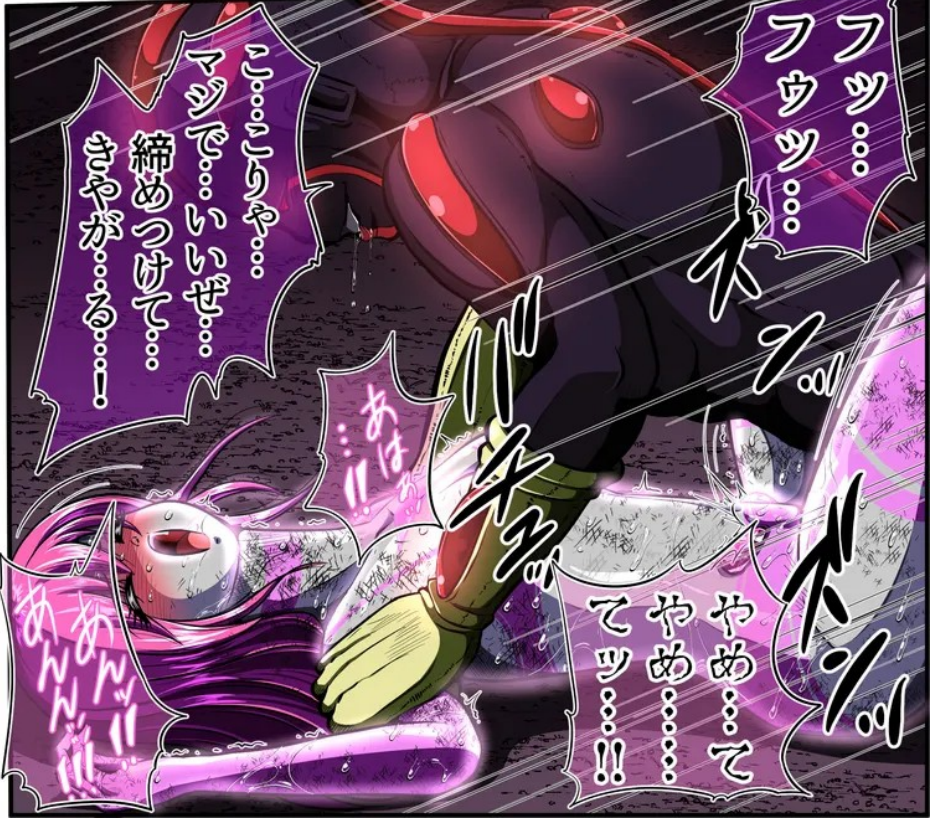
あああっ！！

いやあっ！！
ダメエツ！！
な……腔内……は……！！



やめて……て……
ひどい……い……！！

お願い……
もう……やめて……！！



フツ……
フツ……

……お……や……
……お……や……
締めつけて……
き……が……る……！！

やめて……て
やめて……
て……！！

ズ
ズ
ズ



オ…オオツ…
で…射精するぞ…ツ
オオオオ…ツ…!!

ああツ!!

もう…
イっち…まっ…
……!!

だめツ!
だめだめツ!!

いく…ぞオオツ!
オオオオ…オオツツ!!!



ああツ…

いやツ!
ああツ!!

やめ…て…
やめ…ツ…!!

受け…ろや
皇女…サマ…ツ!!

目眩ツツ!!



あ..あ..あ..

あ..ん..

あ..だ..だ..
出され..た..

あ..

あ..あ..あ..

ククツ…
勝手に一息
つくなよ…

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

う…ツ!!

ああ…う…
うく…あ…
くあああ…!!

まだまだ
始まったばかり
だぜ…?

ククツ…
なんなら
よ…

あああ…
く…
んんツ…!!

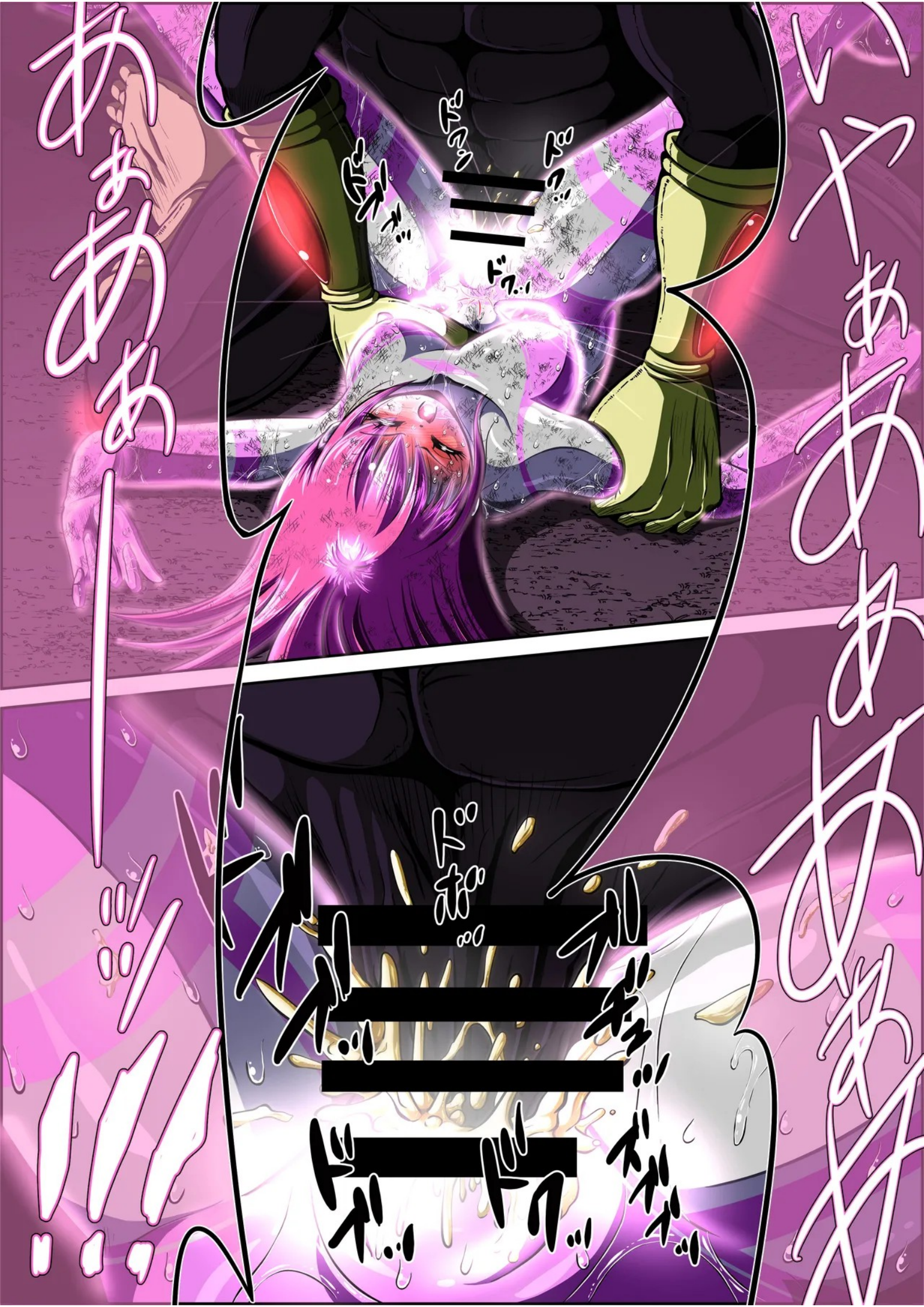
オレの…

孕んで
みるか…?

オレの
子どもを

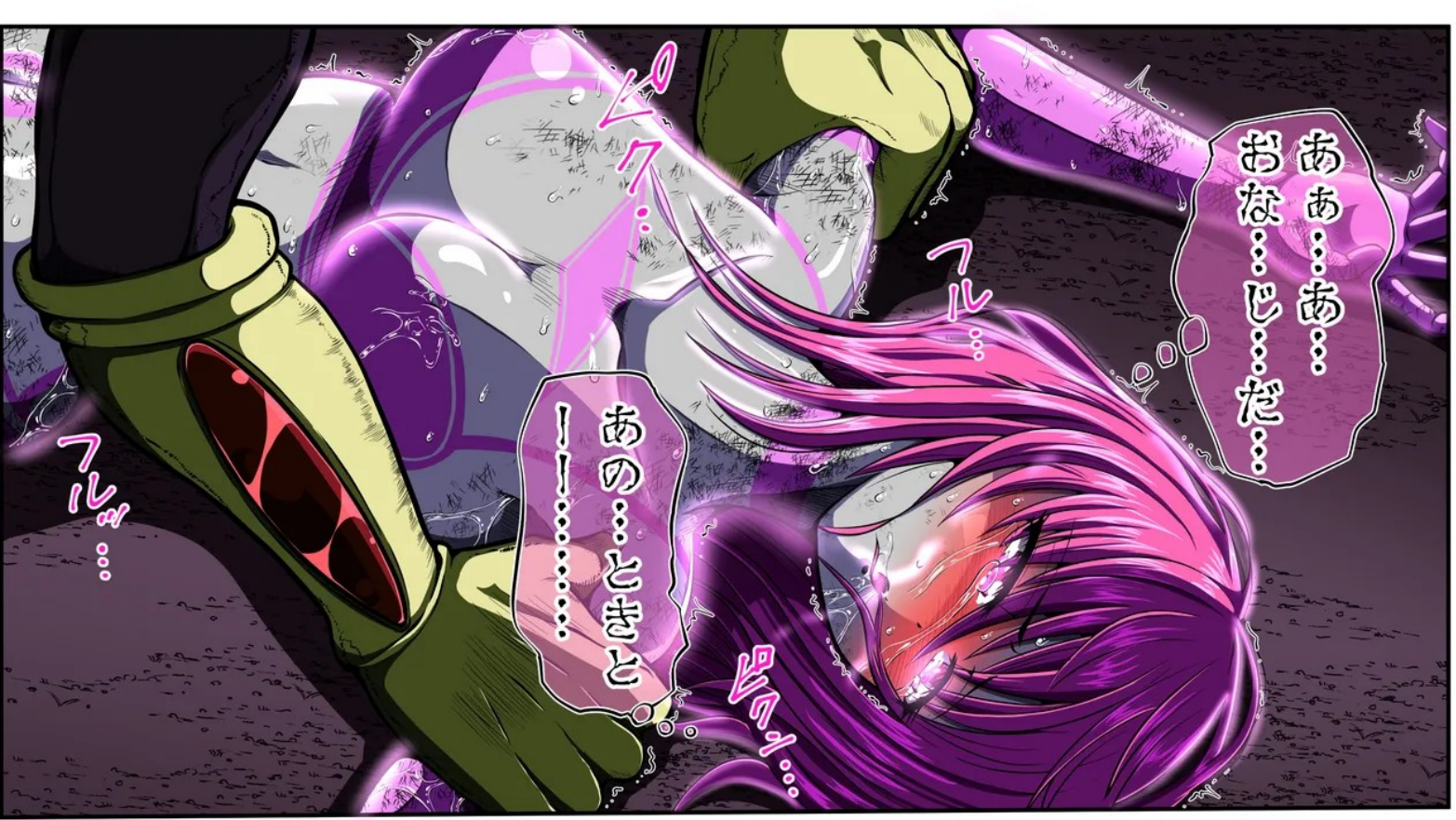
…ツ…!!!







フィオラ クライシスIV
～絶望のバトル!! 堕ちた皇女...!?～



ああ……あ……
おな……じ……だ……

あの……と……
……

フル……

フル……



……
……わかって
た……

はじめ……
から……

こんな
状態……で……
戦え……ば……

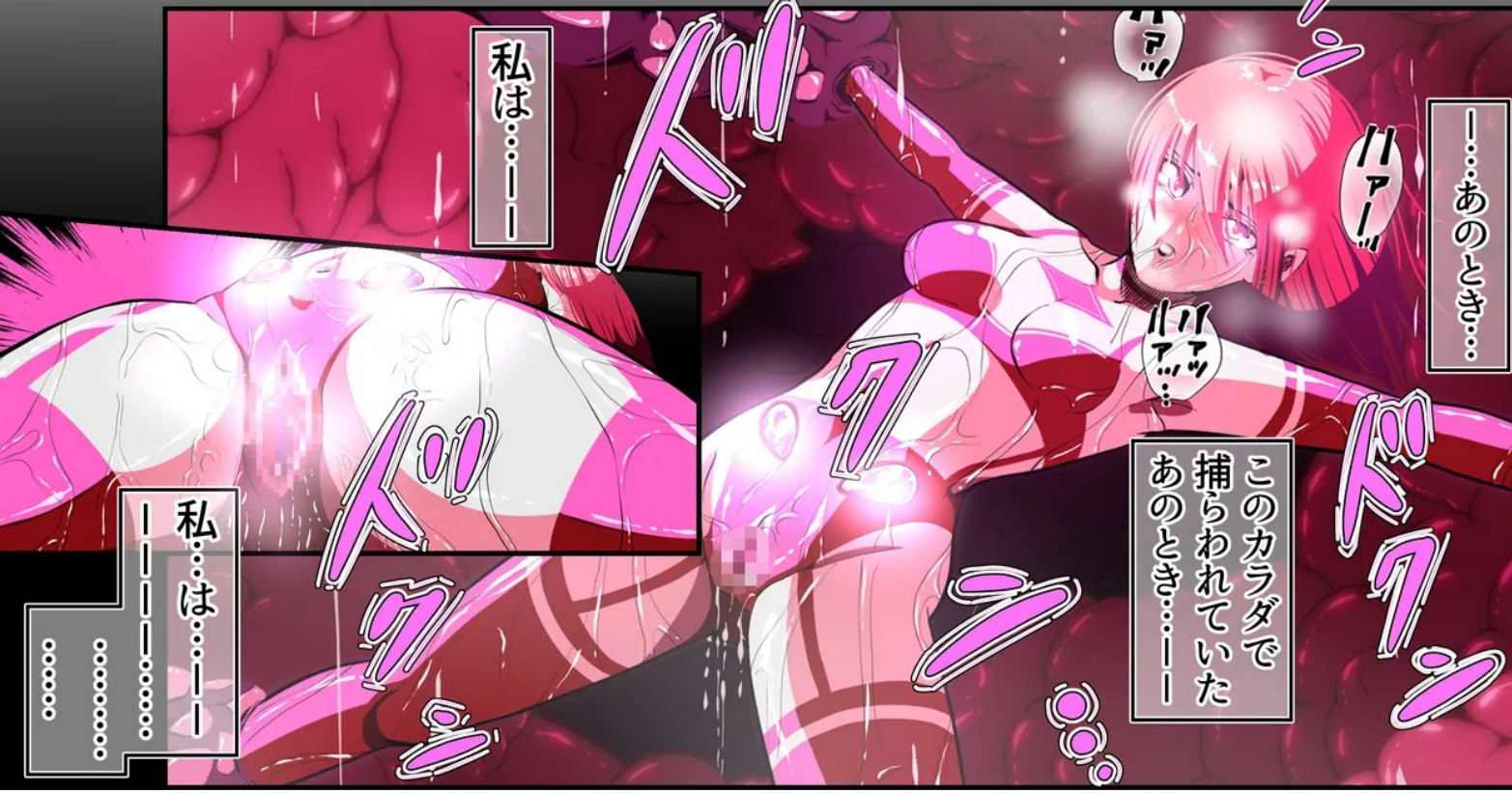
どう……なるか
……な……んて……

そん……な……
の……

ド……

ド……

ド……



……あの……か……

ハア……

このカラダで
捕らわれていた
あのとき……

私は……

私……は……

ハア……

ハア……

ド……

ド……

ド……

ド……

ド……

四肢を肉壁に拘束された状態で
このおぞましい空間に監禁されてから、
一体どれくらい経ったのか……

私はかろうじて正気を保っていたが、
もはやカラダはまったくいうことを
聞かないほど昂らされていた……

だが……不意に現れた気味の悪い触手を
目にした瞬間、何か絶望的な感覚が走った。

先端から垂れている、少し粘り気のある液体……
触手は、あるうことか私の晒された性器に
それを垂らそうとしているのだ……

なんとか逃れようと身をよじるが、
無駄だった……

一滴、二滴と陰部に滴り落ちた
その瞬間——……

私は、未だかつて
感じたことのない——……

強烈な快感を
叩きつけられた……



目の前が
ピンク色に
染まる

!!!
!!!
!!!

一瞬だけど、
気を失っていたの
かもしれないー

それほどの
衝撃だった……

直後ー……

喉が
裂けるかと
思うほど
叫んだ

恐ろしいことに
叫べば叫ぶ
ほどー……

私に
より強い快感が
走るのだった……

誰の耳にも届くことのない、
フィオラ皇女の絶叫が響く。

媚薬まみれにされ、催淫効果の
高いガスにカラダの内部まで
犯された姫は今、地獄のような
連続絶頂を味わっているのだ。

両胸に吸いついた触手は
容赦なくフィオラの形の良い
バストを引き伸ばし：

下腹部ではイボのついた触手が
陰裂を擦り上げ、強烈な快感を
休みなく与え続ける。

(死……ぬ……
わた……し……
このま……ま……じや……)

フィオラはあまりの責めに、
自らの死すら頭をよぎっていた。

とても耐えられない。
こんなことを続けられたら、
気が狂うか、あるいはシヨックで
死んでしまうのではないか……と。

だが……
触手たちに
慈悲など
あるはずも
ない。

首謀者たちに
命令されて
いるのか、
どれもフィオラに
『侵入』はしてこない
が……

彼女には
何の救いにも
ならない。

もし、本気でこの触手たちが
フィオラを犯し尽くせば……

あるいは本当に、
皇女は激烈な感覚に
耐えられず、命を落として
しまうだろう。

恐るべき『計画』は
まだまだ続いていくのだ
が……

失神と覚醒を繰り返して、
今自分がどこにいるのか、
何をされているのかすら
徐々にわからなくなっていた。

終わりのない凌辱。
あまりにも
希望のない状況に、
フィオラ姫の精神は
崩壊寸前だった。

そして……
とうとう彼女は……

Shan-Jiao

も……う……
死……なせ……て……

……おね……が……い……

殺……し……て……

発狂寸前まで
追い詰められた
ファイオラ姫だったが…

肉壁に捕われての
責めは終わり、しばらく
放置される姫…

だが…次なる責め苦が
ゆっくりと、彼女に文字通り
這い寄っていた…

この『計画』の恐るべき点は
決して決定的なとどめを
刺さない、ということに尽きる



正気を取り戻した
フィオラに、今度は
おぞましい蟲が
けしかけられる…

フィオラの感覚を
さらに敏感にする
効果があるのだ

無数の蟲が
カラダを這い回る
感覚に震える姫…
その上、彼等の分泌
している体液には…

嫌悪感と快感に苛まれ、
姫は再び悶えはじめた…
『計画』の予定通りに…！



吊し上げられた
フィオラ姫の身体を、
無遠慮に蟲たちが
這い回っている

乳房に、太腿に、
そして恥部に…

懸命に全身を揺すり、
逃れようとする姫だが
粘ついた液体に塗れた
蟲は簡単には剥がれない…

まるで媚薬を
塗りたくるように
蟲たちはうねり
這い進んでいく

代わる代わる
淫裂に蟲の這う
感覚が襲い…

いつか『侵入』されて
しまうのではと
フィオラは恐怖
していた

それほど、普段は
閉じられた性器が
はつきりと
露出していたのだ…

肉壁に捕われての
徹底凌辱：
おぞましい
淫蟲責め……

フィオラ姫の
『開発』は
さらなる段階に
入っていく

四肢を埋め込まれ
動けない彼女は、
4本の柱に囲まれた
特殊装置に拘束される

ズ
ズ

ズ

ズ



桃色の怪しい光を発する
柱の最上部に据えられた
クリスタル：そして
フィオラの真下にも
発光する巨大な球体状の
クリスタルが輝く……

ズ
ズ

ズ

ズ

(な…何…!!?)
この光は……!!)

今度は一体、
何をされるのか。
フィオラは自然と
不安げな表情に
なっていく。

徐々に、しかし確実に
弱まっていく抵抗の意志。
この特殊装置で、さらに
彼女のカラダは狂って
いくのだ…。

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン



激しい発光と
ともに、柱から
高い音が鳴り響く

フィオラは当然、
何が起こっているのか
知る由もないが……

直感で、破滅的な
『何か』を感じ取って
いた

そして、
次の瞬間……

柱から皇女の
2つのクリスタル
へ……

彼女のカラダを
『開発』すべく

眩い光線が
同時に放たれた

そして……彼女に
ひとりの男が
近づいていく……

狂ったように悶える
ファイオラの傍らに
立つ、この男…

姫を捕らえ、
快楽漬けにする
この計画の首謀者
たちのリーダーで
ある

名をベシユテル
という

彼は
ファイオラ皇女と
同族の宇宙人で
あつた

半狂乱の
ファイオラだつたが

この男が
自分を捕らえた
計画に関わつて
いることに
驚愕する

その間にも、
光線が彼女の
下腹部の
クリスタルを貫き、
より一層感度を
メチャクチャに、
上限
なく引き上げていく…

『フフフ…
もつとだよ』

『もつともつと
狂わせてやるよ
ファイオラ…』

ベシユテルの
通る声でさえ
今のファイオラには
遠くに聞こえる

全身が熱く、
まるで
快楽に焼かれる
ような感覚…

ファイオラ姫の肉体は、
こうしてまた更に、
淫らに、いやらしく
変化していくのだ…

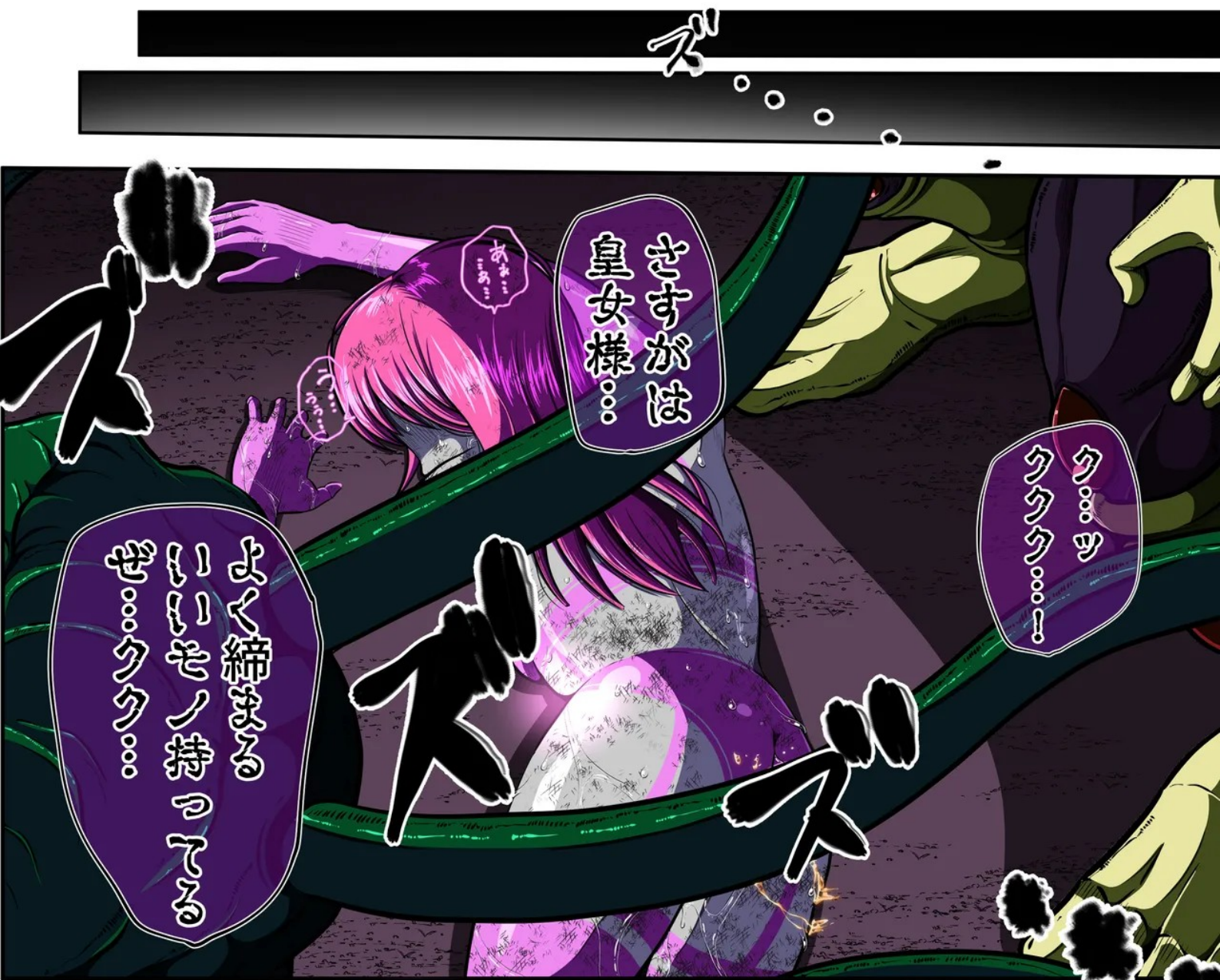


ファイオラの肉体は
より淫らに、感じやすく…

まるで別人のような
それに変えられていった

このファイオラ皇女に対する
『開発』、『調教』、『淫乱化』を
目的とした計画は、俗に
『1000年計画』と呼ばれている

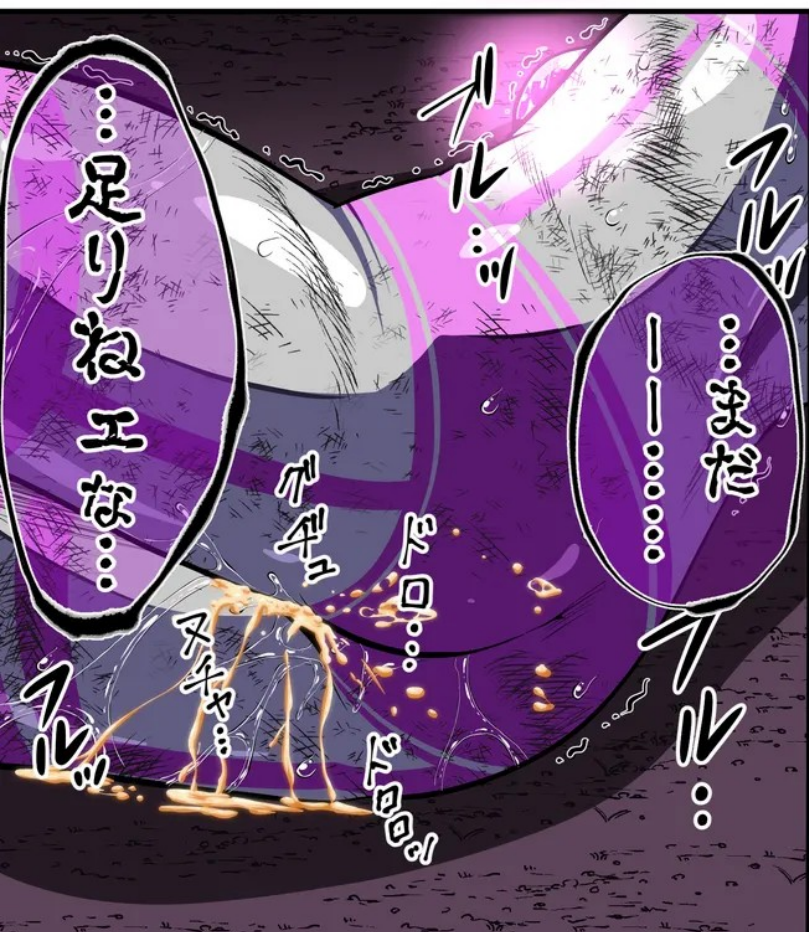
ファイオラに刻まれた
凌辱の深い痕…
それが今、ブラン星人の
策略によりよみがえり、
再び皇女に牙を剥いて
襲いかかったのである…



さすがは
皇女様…

ククク…
ククク…

よく締まる
いいぞ！持ってる
ぜ…ククク…



…足りねえな…

…まだ…
…



ククク…
ククク…

ククク…
ククク…





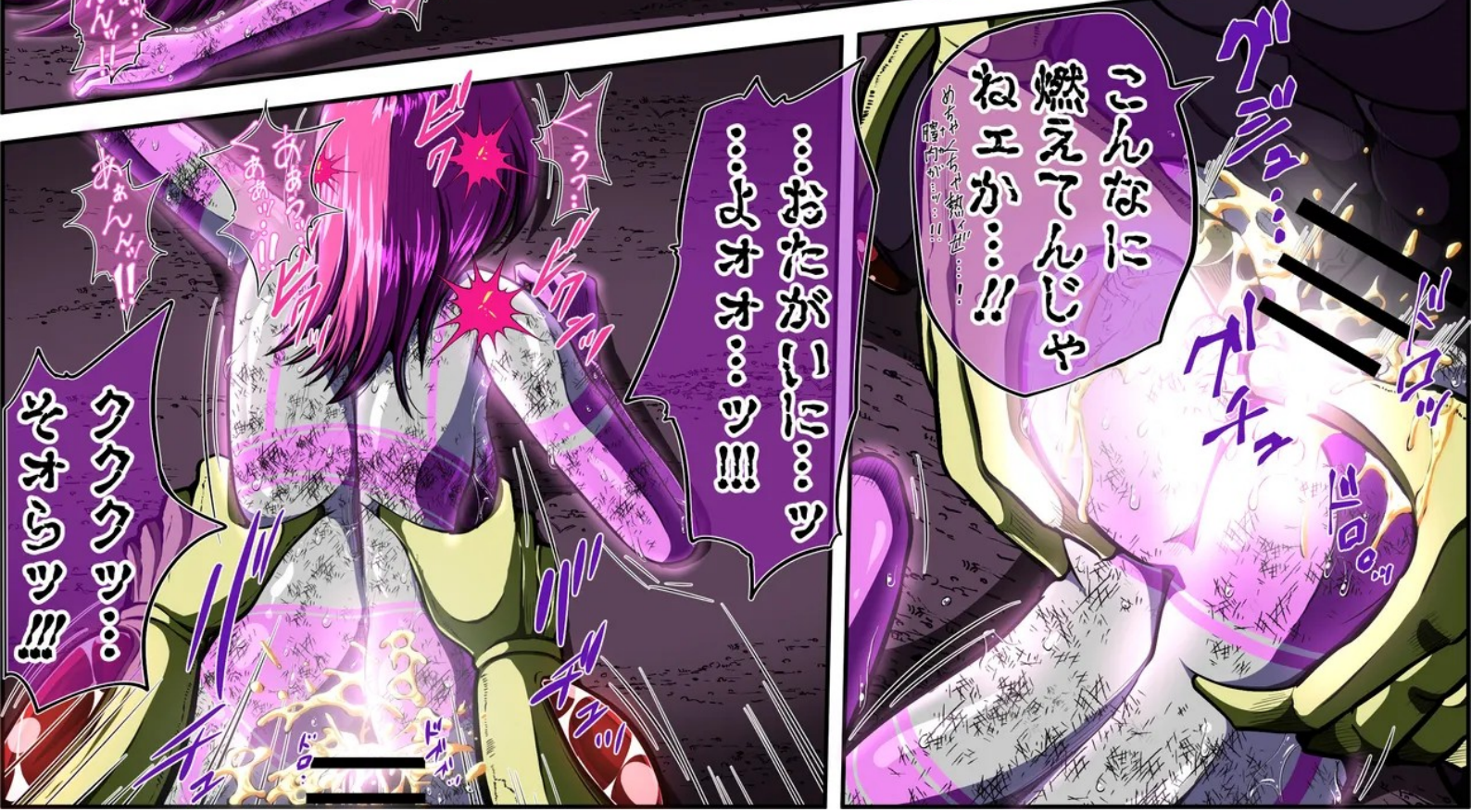
見ないで
…だと？

お願い…!!
光…!!

そりゃ
ねエだろ
ククク…!!

見てもらおう
ぜえ……
クククツツ…!!

……ツツ…!!
……ツツ…!!
……ツツ…!!



こんなに
燃えてんじや
ねエか…!!

…おたがいた…ツ
…よオオ…ツ!!!

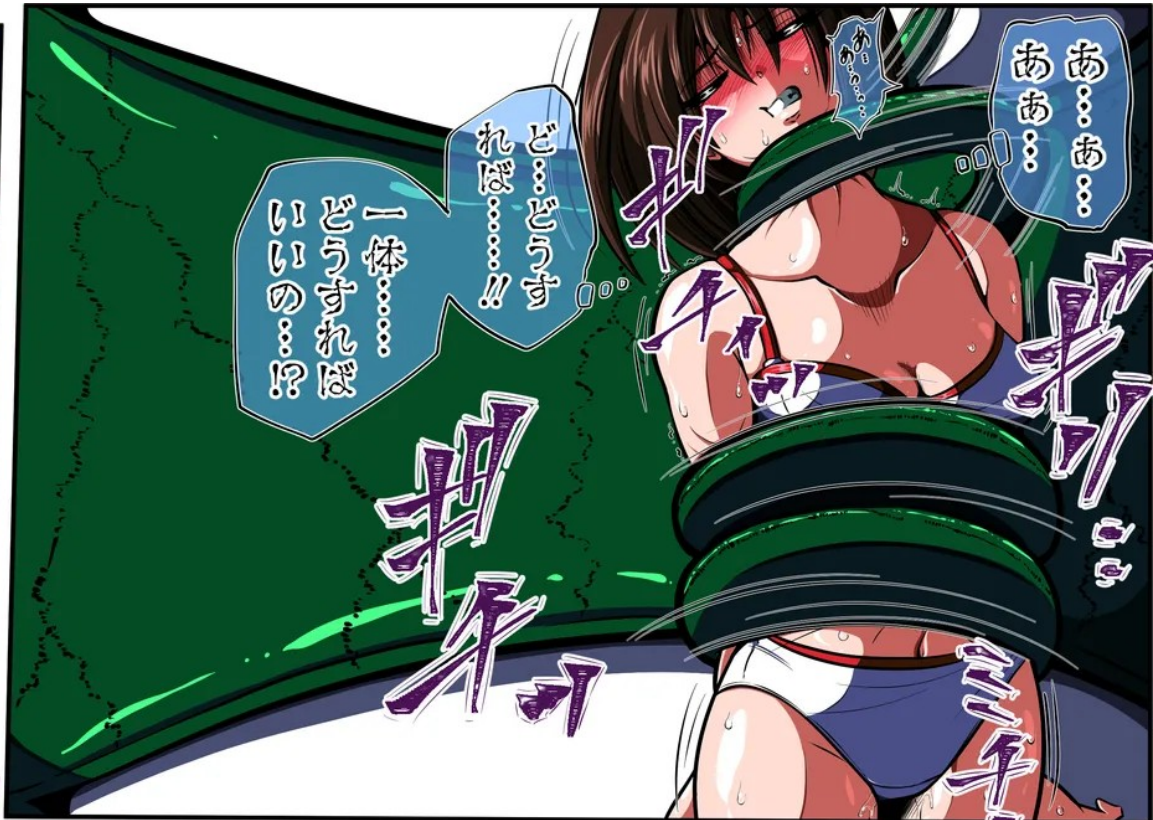
クククツツ…
そオオツ!!!

……ツツ…!!
……ツツ…!!
……ツツ…!!
……ツツ…!!



あ……あ……
あ……あ……

ギョッ……
ギョッ……
ギョッ……

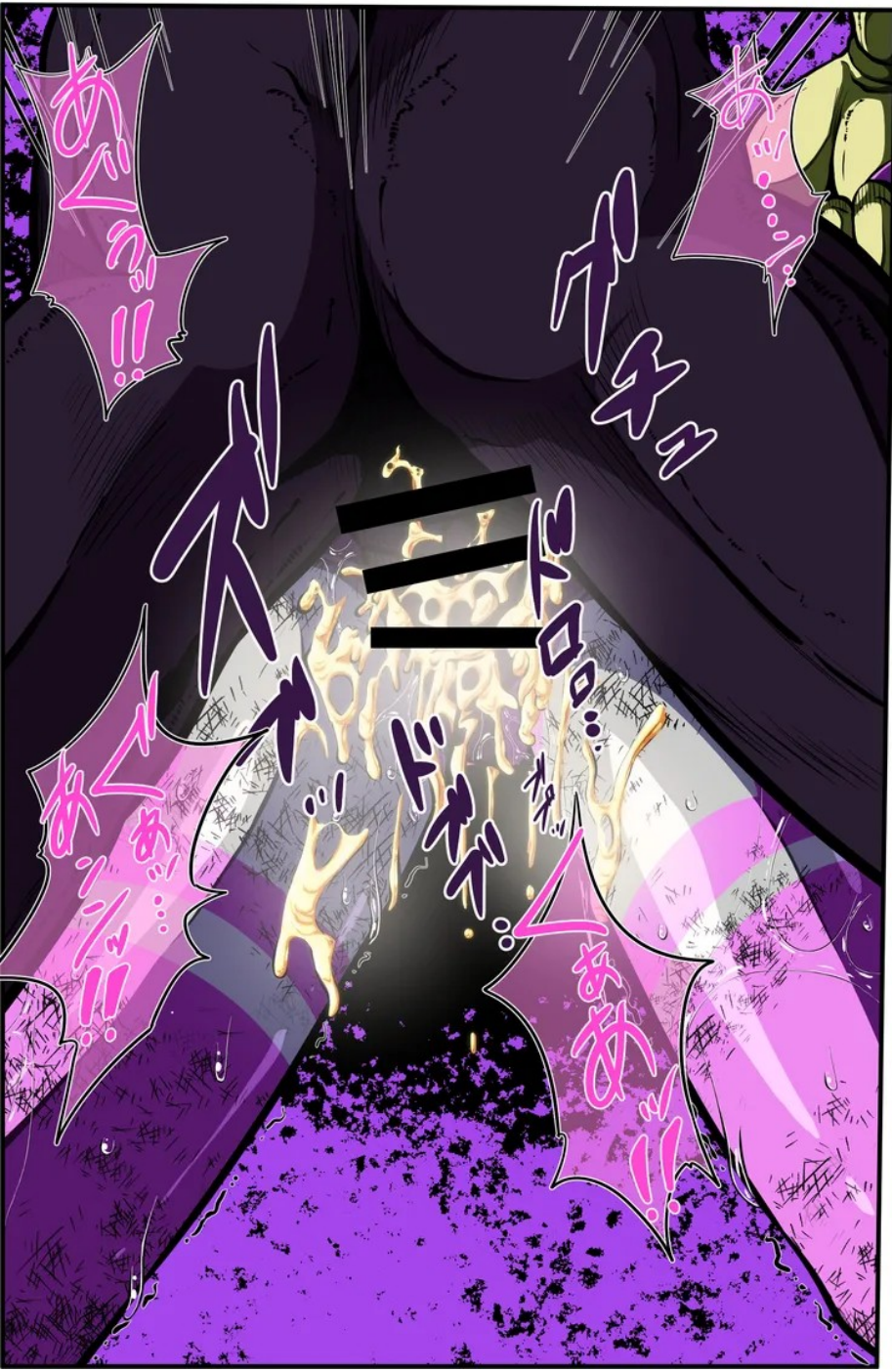


あ……あ……
あ……あ……

ど……ど……
ど……ど……

一体……
どうすれば
いいの……!?

ギョッ……
ギョッ……
ギョッ……



あ……あ……
あ……あ……

ギョッ……
ギョッ……

あ……あ……
あ……あ……

ド……ド……
ド……ド……

あ……あ……
あ……あ……



フイオラが……!
フイオラがいいほうに
されているのに……!

んん……
んん……

私には何も
出来ぬの……!?

ギョッ……
ギョッ……



そんな顔が
できるのが
ヒメサマよオ...

ゴリヤ
まだまだ
楽しんでる
だな...

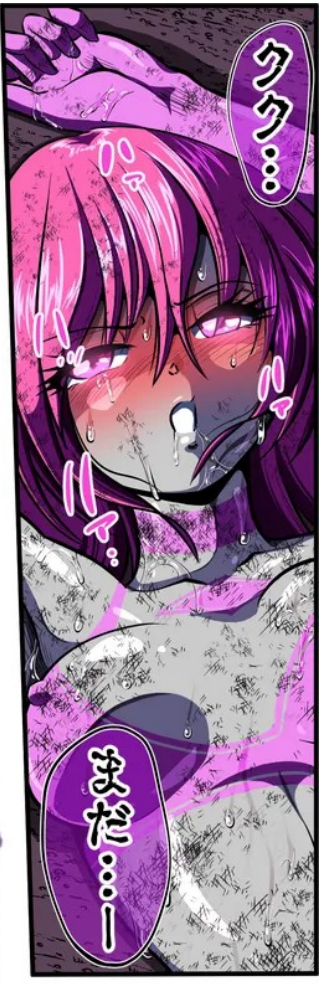
クククク...
...ゴリ...
そなた...!!

ズ

ズ

く...
く...

ズ



クク...

まだ...



...ツ!!

なっ...
な...んで
すって...!!



あの
地球の小姐...

...ツ...

せつかぐだ
アしを使おう
か...!



クク

やる気
出るたろ?
お優しい
ファイオラ様



ひっ…
光…を…
—…!!

彼女…をっ…
どう…する
気なのっ…!!



わ…私は
き…気持ちよく
なんか…ツ…!!

クハハハッ!
強がつてんじや
ねエよ…!!



クククツ
お前ら元々
一心同体
だろ?

なのによオ…
姫サマだけ
気持ちよく
なんのは良く
ねエよな…

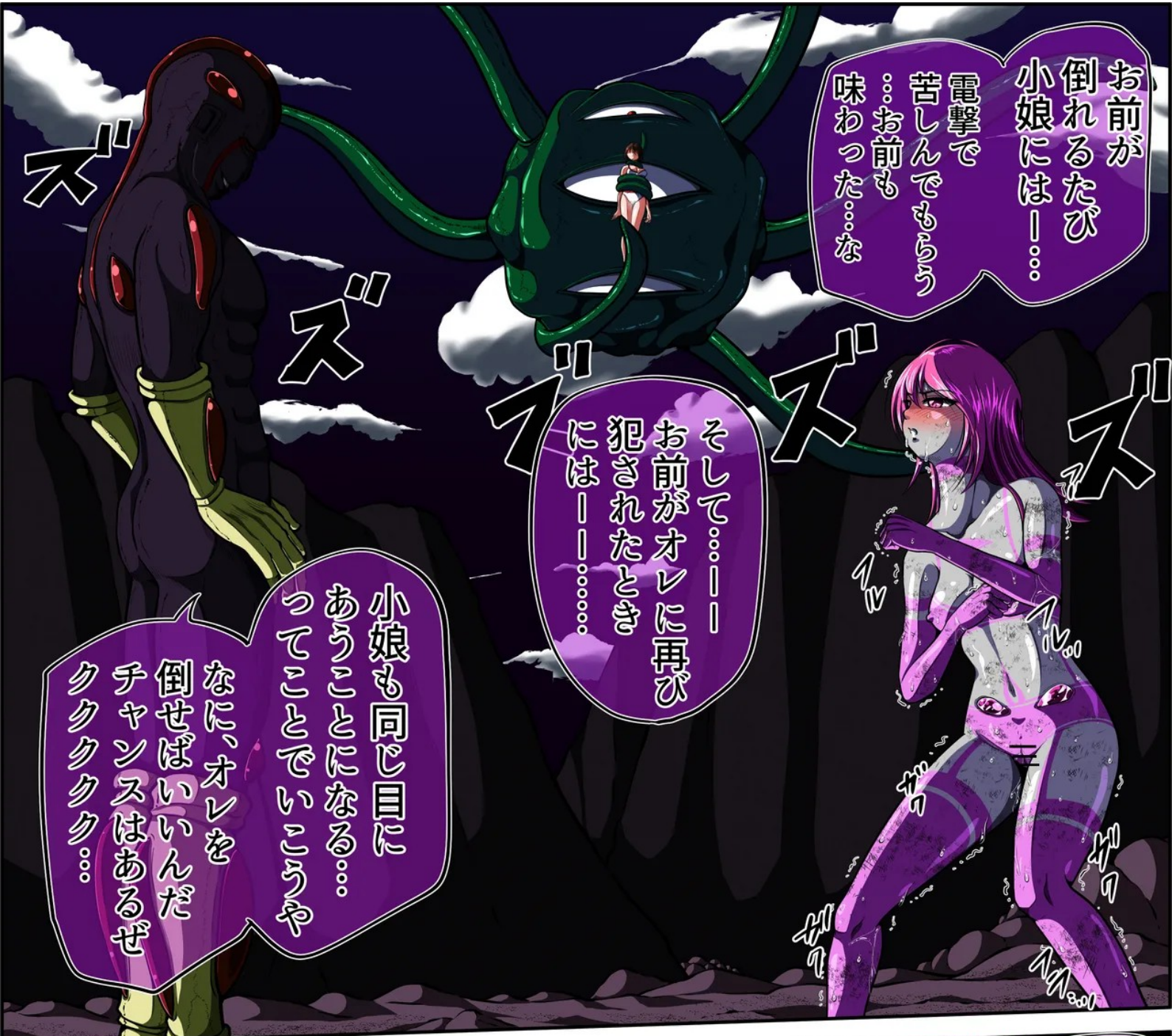


…ツ…!!
!!



オレと
改めて戦おう
か…

あの小娘を
賭けて……な



お前が倒れるたび小娘には……電撃で苦しんでもらう……お前も味わった……な

そして……お前がオレに再び犯されたときには……

小娘も同じ目にあうことになる……つてことはいこうやなに、オレを倒せばいいんだチャンスはあるぜククククク……



な……なんて……なんて卑怯なヤツ……!!

そして……残酷だわ……!!

どこまで……ファイオラを……許せ……ない……!!



……

……わかつ……たわ……!!



当然だが皇女サマに拒否権はねエぞ

あんな小娘、すぐにでも殺しちゃまっていいんだからな……



戦^やらうや
皇女サマ……!!

……ごや

光を助ける
ためなら……
私の……



……光を

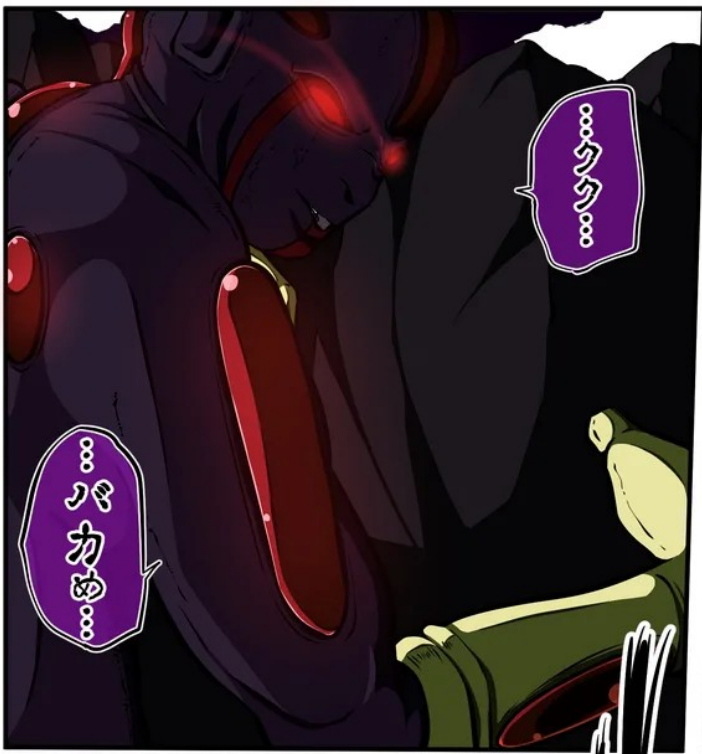


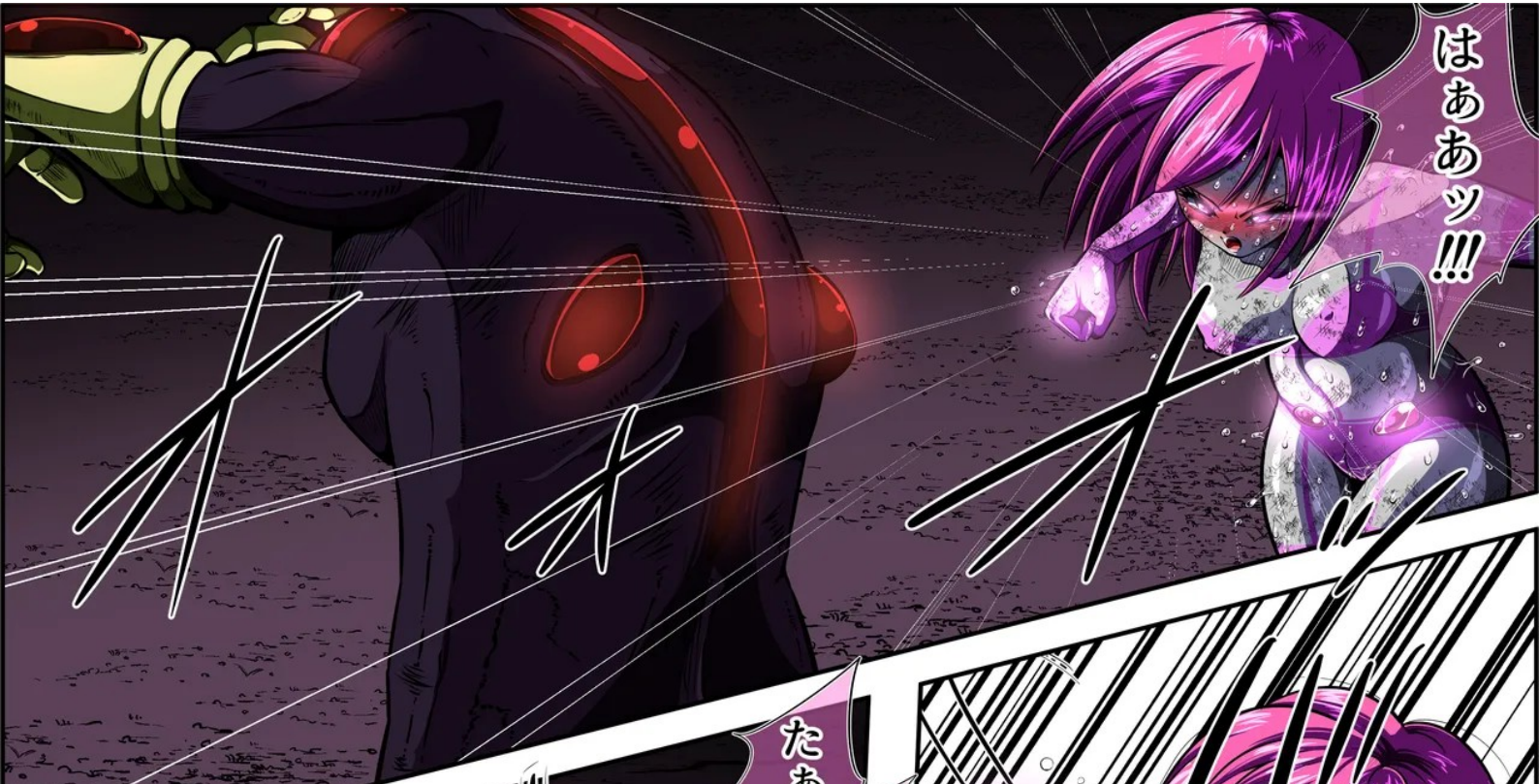
無くしても
かまわないッ……!!

私の命……!!



……!

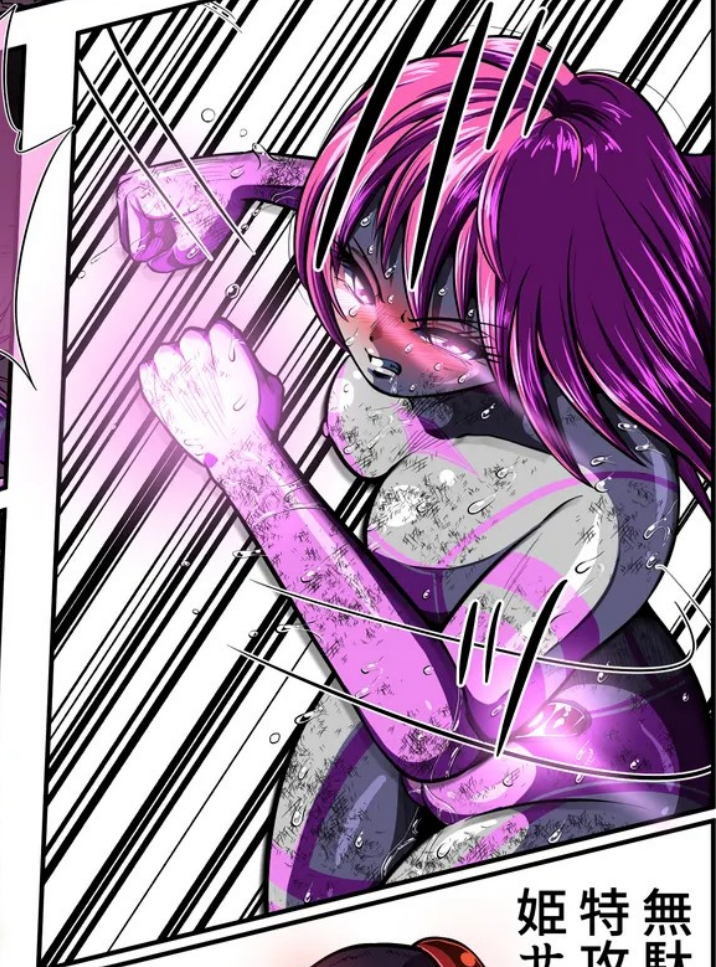




はああッ!!!



おっ...



たあああッ!!!



あぶね えな...



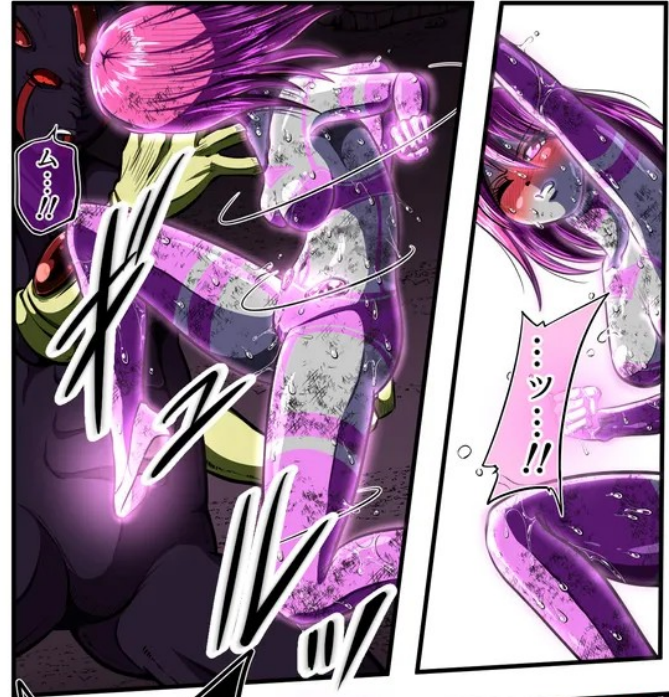
お前... だけは...!!



ニヤ... その懸命さが 実にそとるけどな... グフフフ...ッ...

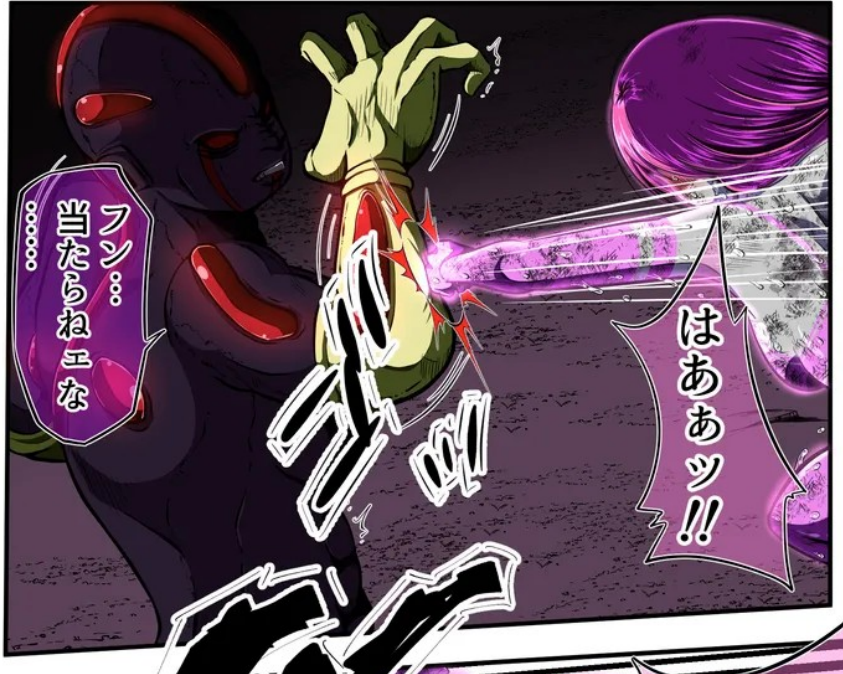
無駄な 特攻だ 姫サマニヤ

ニヤ



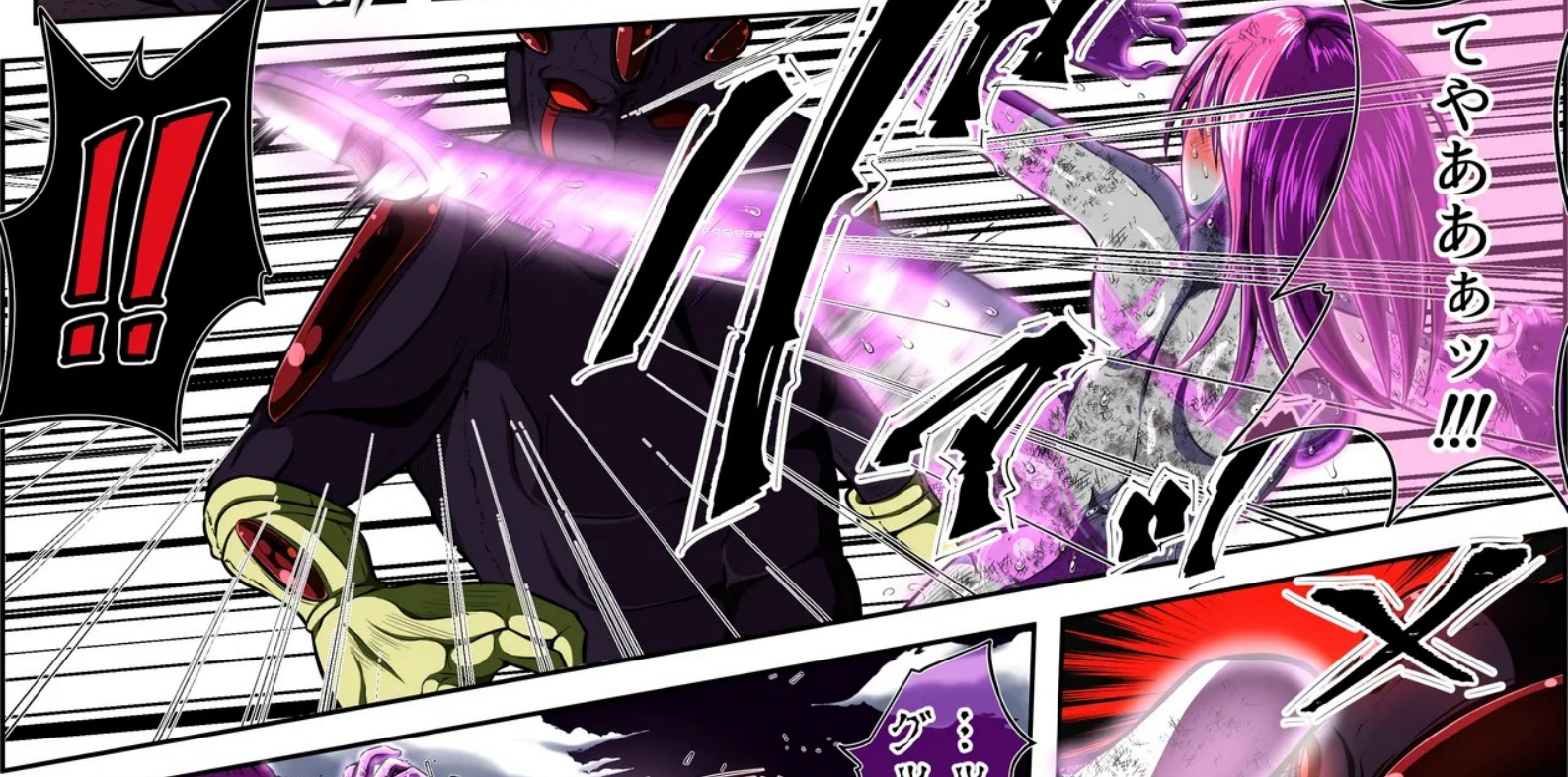
ム...

...ツ...!!



フン...
当たらねえな

はあッ!!



!!

てやああッ!!!



ム...の
動きは...!?

グ...!!

なんだ...!?
さんさん犯って
やったのに...!!



ム...の
女...!!



私と...

私と光を...

甘く...ツ

甘く...ツ

ウん...

ウん...

ド!

ド!

見ないでツ

!!!

!!!

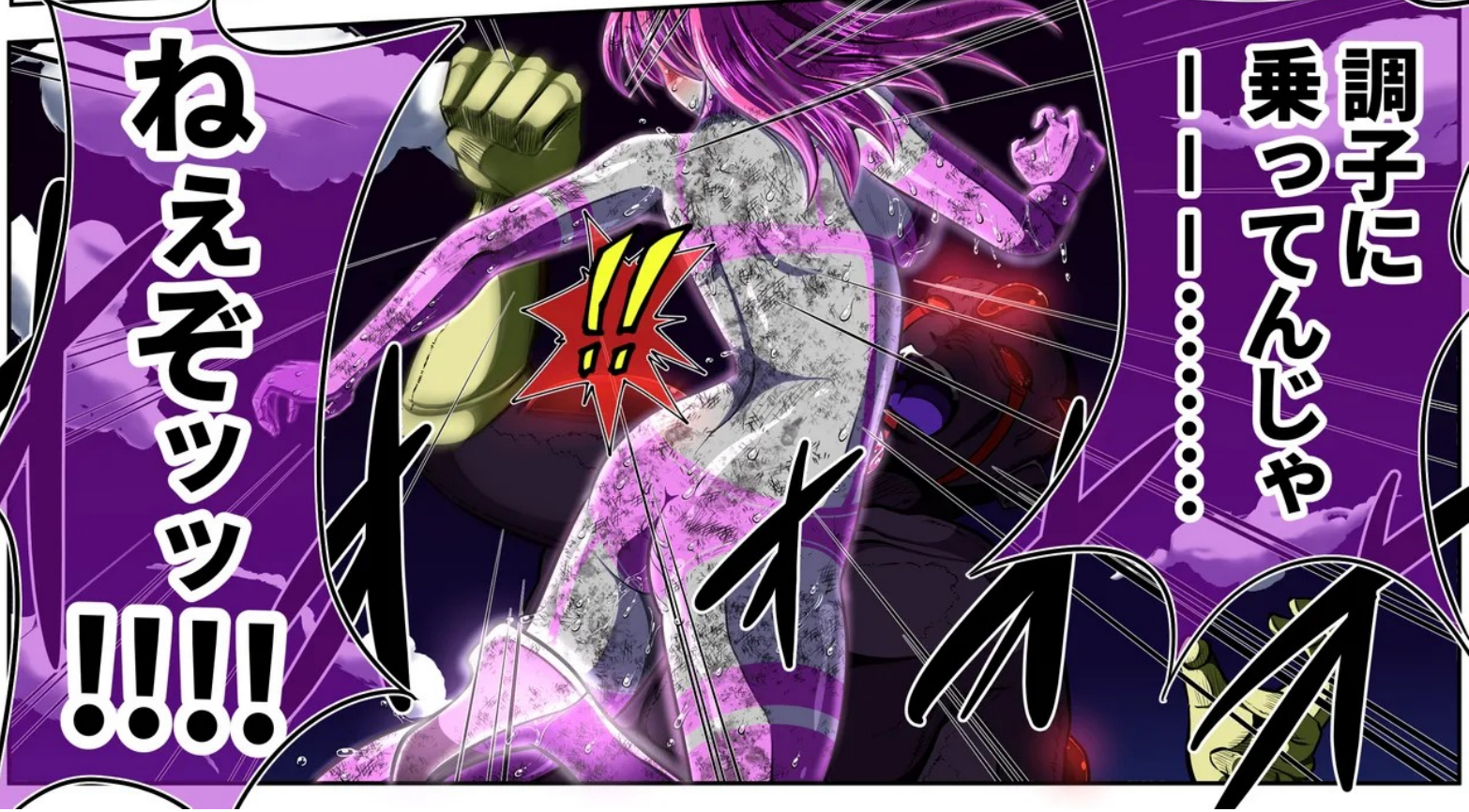


ぐん...



小娘...
が...!

ん...
ん...
ん...



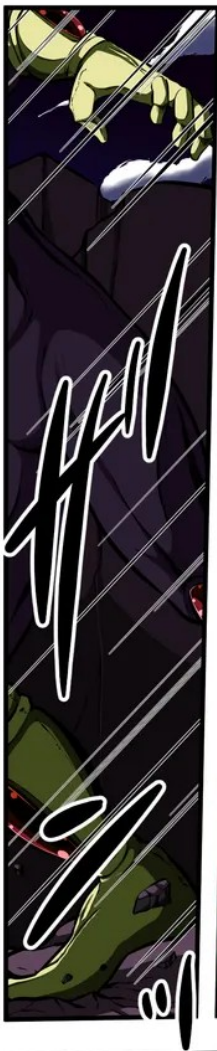
調子に
乗ってんじや

!!!

オ

ねえぞツツ
!!!!

!!!!



たり...
お返しさせて
もらってあげようか
グハハッ!!

グハハッ!
やっつけてくれたな
皇女サマアツ!!

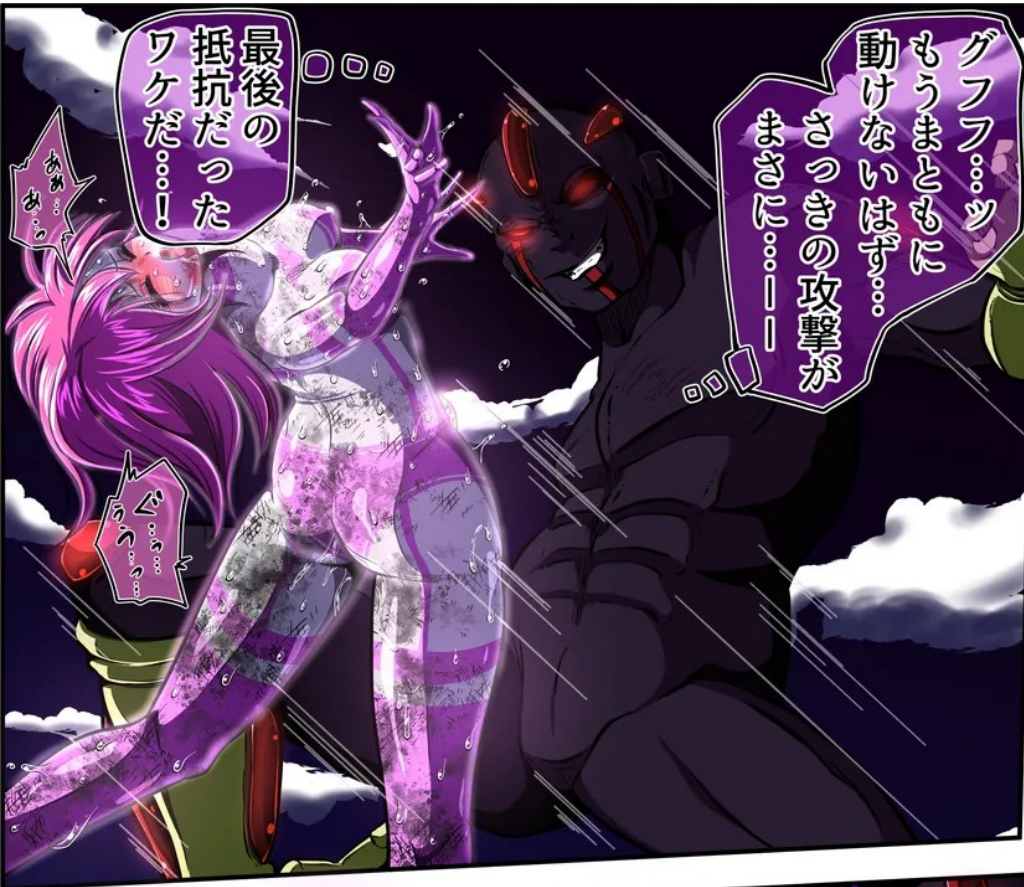
あ...あ...
あ...あ...
あ...あ...



そら...
ツツ!!!

ツツ!!!

ツツ!!!



最後の抵抗だった
ワケだ……!!

グフフ……ッ
もうまともな
動けないはず……
さっきの攻撃が
まさか……!!



ヒッ!!



楽しませて
くれるぜ……!!

やっても
いたぶっても
最高だ……



グフフ……ッ
しかしまあ
……

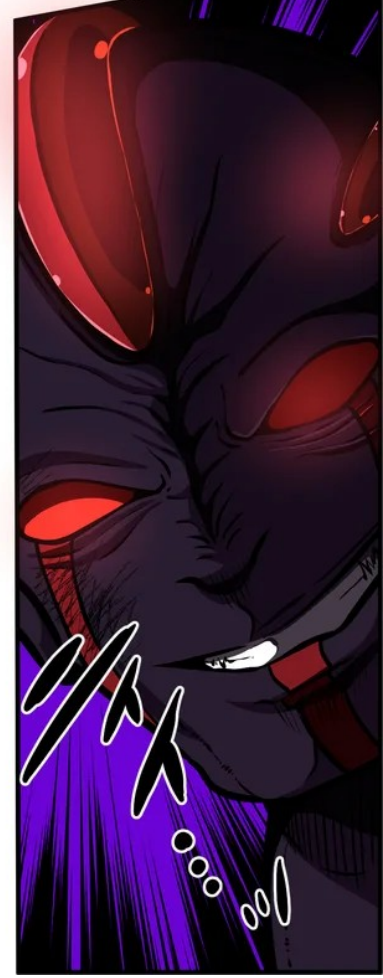
この『女』
……



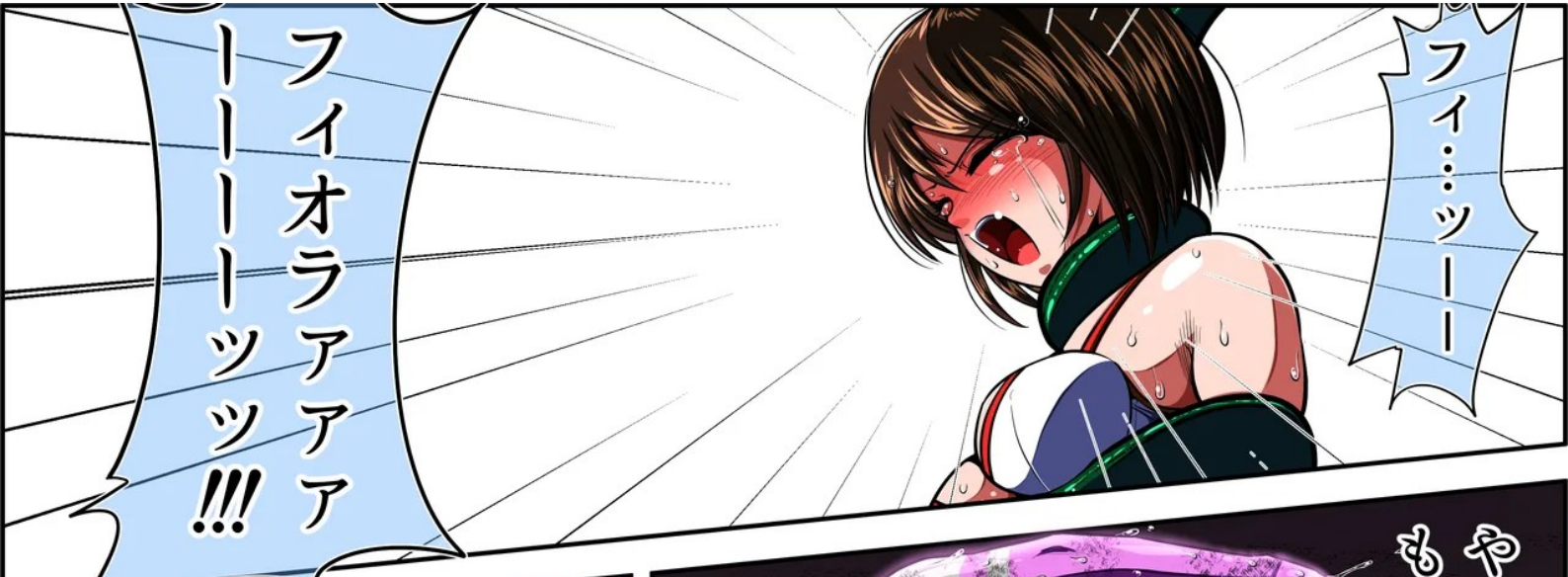
この女の
抹殺……

少し延ばして
もらうかア……?

捕らえて監禁
しちまえば
死んだも
同然だろうしな……



ヒッ……ッ

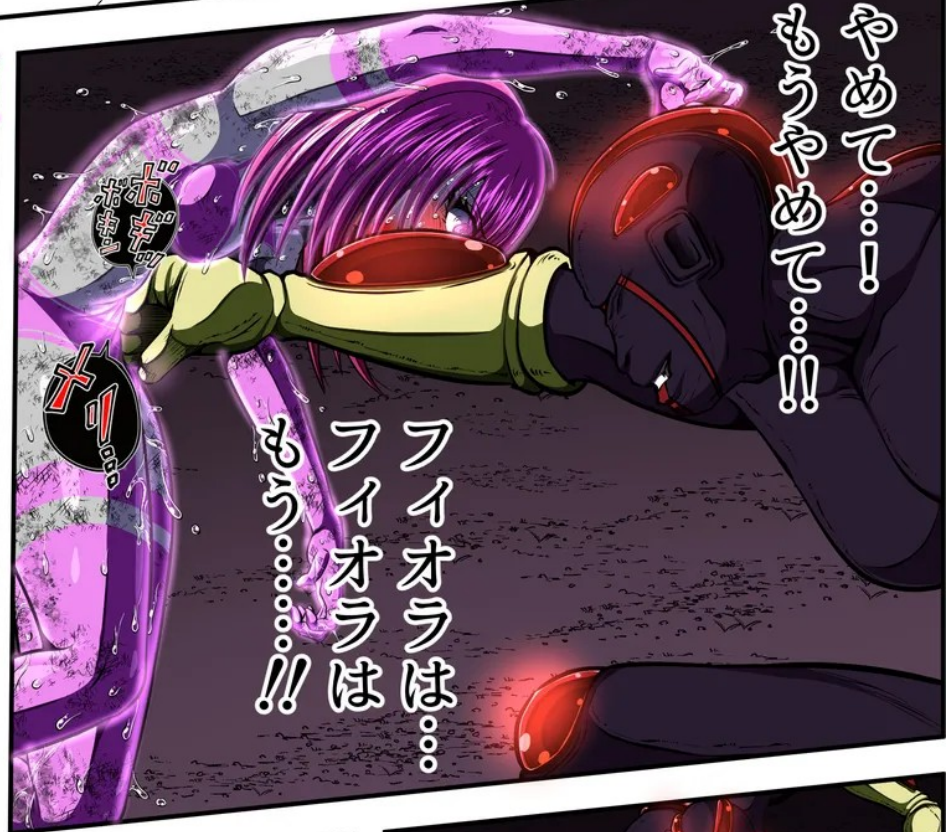


フイ…ッー

フイオラアアア
ッーッーッー!!!

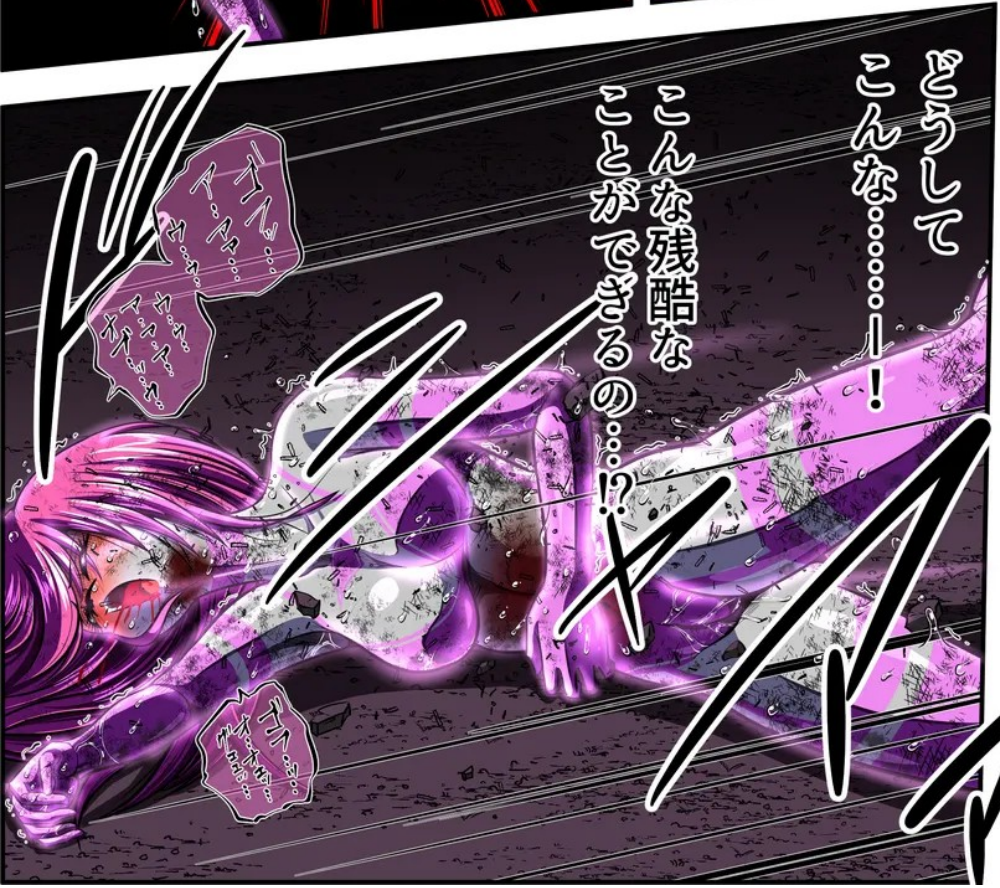


フン…



おめて…!!
おめて…!!

フイオラは…
フイオラは…
もう…!!



どうして
こんな…!!

こんな残酷な
ことが出来るの…!!

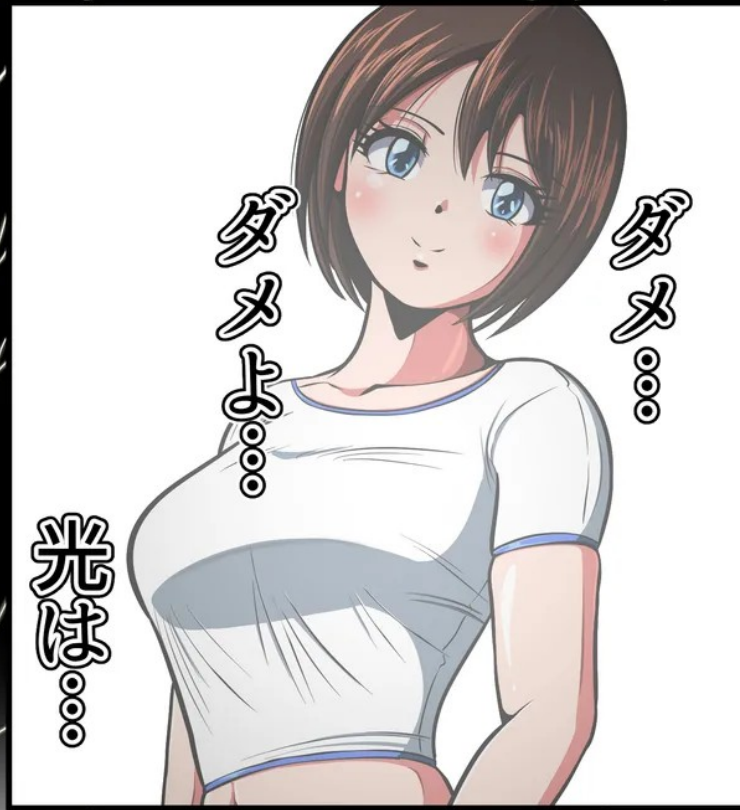


どうして…??



光は普通の地球人なのよ……

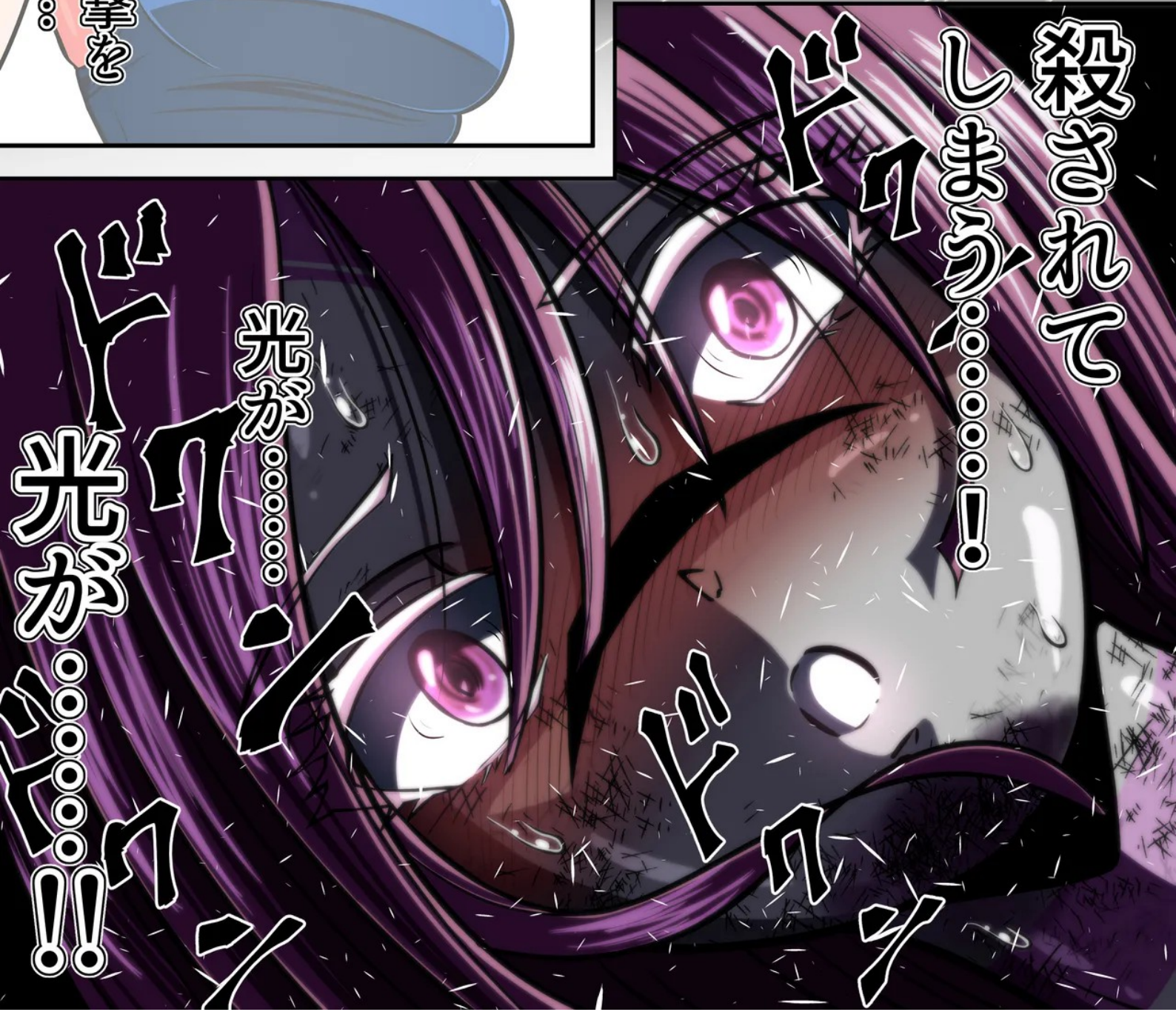
あんな強力な電撃を受けたら……



ダメ……

ダメよ……

光は……



殺されて

しま……！

ドク

ドク

ドク

ドク

光が……

ドク

ドク
光が……！！



やめさせてツ!!
お願いツツ!!!

やめて!!!
やめてえツ!!!



タンフツ
にこ声だ...

あの女も実だ
にたさうかこが
あのか...

タンフツ...
...Doo...

や...
...や...



...フツツ
今さら何き
わめいてやがる

言ったはず
だぜ?

お前がたおれ
たら...
あの女が
苦しむこと
なるってな



oooooo
タンフツ

あ...
あ...
あ...



た...
立ちわツ!!!

あ...
立ち...
あ...

お前も…
地球人の女も…

お楽しみは
まだまだー…

これから
なんだから
な…!!

かなら…

助け…から…
待つて…!!

かなら…



『フィオラ クライシス Ⅰ』

自身を狙う星人の作り出した亜空間にて
宇宙凶暴猿・ゴルルグと戦うフィオラだったが…

度重なる怪獣との戦いで消耗している彼女は
ゴルルグの力任せの猛攻に大苦戦してしまう…!

容赦なくボロボロにされていく姫…
果たして勝機を見出すことはできるのか…



『フィオラ クライシスII
～残酷！ブラン星人の罠！～』

ゴルググに散々いたぶられたフィオラ…
抵抗のすべを失った彼女に、さらなる受難が…！

激痛、そして**快楽**を特殊針によって流し込まれ、
姫のカラダはひたすらに**翻弄**される！

ブラン星人のフィオラ姫抹殺計画は
着々と進んでいく…！！

『フィオラ クライシスIII
～光クライシス!～』

ボロボロに傷つけられたフィオラ…
卑劣な宇宙人の魔の手は同化者、光にまで伸びる!

差し向けられた不気味なクリーチャーたち…
光を狙い、容赦なく襲いかかる…!!

傷ついたフィオラを休ませるため…
光の孤独な逃亡劇がはじまるうとしていた!!

悲壮な覚悟を決めた、姫野 光の運命は……!?



ファイオラ姫
ついにブラン星人に
敗北...!!

絶望の凌辱劇が
幕を開ける...!?!

ファイオラクライシス IV

～絶望のバトル!! 堕ちた皇女...!?!～



このたびは本作をお手にとりいただき、
ありがとうございます^^。shadeです。

『フィオラクライシスIII』を出した2019年なので、
外伝ではない続きものとしては実に3年ぶりですねw
今までで一番長いページ数になりましたが、内容はいかが
だったでしょうか？

相変わらず前置きが長いかなあと思いつつ、作者としては
精一杯描いたな、という感想です。ページ進めていくにつれ
思いつきで加筆ページを入れるクセはイカンなと反省して
ますがw

なんだかんだで同人作品として8年以上続けている
このシリーズ、まだまだ描きたい気持ちが強いので『V』も
どうぞ応援していただければ嬉しいです！
(作品として出すのはいつになるかまだ全然未定ですが…)

さて、次作は何に手をつけるか…

このあたりはある程度決めていることと迷っていることが
あります。

描きたいものが湧いて出てくるのは以前からなんですが、
最近は『これファンの方が望んでるかな？』というのも
意識するようになりました。

※以前は意識してなかったんかい！というツツコミは
やめてください。…ぶっちゃけ描きたいものを描いて
ましたからそんなに考えてなかったんです…w

では、また次作でお会いできれば嬉しいです！
shadeでした！

2022年8月某日
shade